社会開発協力部

No. 2

インドネシア・ラジオ・テレビ放送
訓練センター 計画打合せ調査団
報告書

平成元年３月

国際協力事業団
社会開発協力部

海 セ
JR
89 — 066

JICA LIBRARY
1076485[0]

インドネシア・ラジオ・テレビ放送
訓練センター 計画打合せ調査団
報告書

平成元年３月

国際協力事業団
社会開発協力部

国際協力事業団
19846

序　　文

インドネシア共和国は民族及び文化の多様性を有する島しょ国家であり，国家の統一，近代化の促進等の観点から，ラジオ・テレビを中心としたマス・メディアの果たす役割は極めて重大である。

このため同国政府は，国家開発計画の重点施策としてラジオ・テレビ放送網の拡充を図っており，それに必要なスタッフの訓練・養成を目的としてマルチ・メディア・トレーニング・センター（MMTC）の設立を計画し，昭和54年9月，我が国に対し協力を要請してきた。

これを受けて我が国は，無償資金協力により施設，訓練機材を供与するとともに，ラジオ・テレビ放送要員の訓練に関し，昭和58年10月21日の討議議事録（R/D）署名以降，番組編成，番組制作，報道，制作技術，運行技術及び送信技術の各分野につきプロジェクト協力を行ってきた。

当初計画では，昭和63年10月20日に協力期間を終了することとなっていたが，同年4月のエバリュエーション調査の結果に基づき，協力期間を2年間延長した。

これを受けて，当事業団は今般，R/D延長から約半年後のプロジェクトの進捗状況及び問題点を把握するとともに，今後の協力計画につきインドネシア側と協議を行うことを目的として，平成元年3月20日から3月29日まで，郵政省通信政策局国際協力課課長補佐 麦島正靖氏を団長とする計画打合せ調査団を派遣した。

本報告書は，同調査団の調査，協議結果をとりまとめたものである。

終わりに，今回の調査の任に当たられた団員各位並びにご協力いただいた外務省，郵政省，NHK及び在インドネシア日本大使館その他関係機関の方々に対し，深甚の謝意を表する次第である。

平成元年3月

国際協力事業団
社会開発協力部
部長　山　下　生比古

ミニッツに署名する麦島調査団長（左）と
Mangaweang 情報省次官（右）

MMTC 所長室にて，Karamoy 所長（右奥）との打合せ
（調査団は中央から左へ３人目まで）

目　　次

序　文
写　真

1．計画打合せ調査団の派遣……1
1—1　調査団派遣の経緯と目的……1
1—2　調査団の構成……1
1—3　調査日程……2
1—4　主要面談者……2

2．調査・協議結果概要……4

3．ミニッツ……9

4．プロジェクトの進捗状況……15
4—1　訓練コースの実施状況及び今後の計画……15
4—2　カウンターパートの配置……25
4—3　技術移転の達成状況及び今後の見通し……33
4—4　カリキュラムの整備及び準備状況……53
4—5　教科書・教材整備状況……85
4—6　供与機材の活用及び維持管理状況……90

5．プロジェクト実施体制……101
5—1　組織・要員……101
5—2　建物・施設……104
5—3　予算……106
5—4　合同委員会……110

付属資料……111
1．プロジェクト概要表……113
2．プロジェクト実績線表……115
3．日本側投入実績表……117

4．マスタープラン修正のミニッツ（1986年9月19日）……125
5．エバリュエーションのミニッツ（1988年4月15日）……135
6．協力期間延長のミニッツ（1988年8月8日）……139
7．The Structure of Curriculum Programme (Diploma I)……143
8．The Structure of Curriculum Programme (Diploma II)……153
9．The Structure of Curriculum Programme (Diploma III)……161

1．計画打合せ調査団の派遣

1—1　調査団派遣の経緯と目的

インドネシア共和国政府は，国家開発計画の重点施策としてラジオ・テレビ放送網の拡充を図っており，これに必要な人材の訓練・養成等を目的として，マルチ・メディア・トレーニング・センター（MMTC）の設立を計画し，我が国に協力を要請越した。

これに対し我が国は，同構想のうちラジオ・テレビ放送訓練センターにつき，無償資金協力で約18億円にのぼる施設建設と機材供与を行うとともに，昭和58年10月21日のR/D署名以降，番組編成，番組制作，報道，制作技術，運行技術及び送信技術の各分野について5年間にわたる技術協力を開始した。

同センターは昭和60年7月31日に開所したが，その前日付けの大統領令により急拠アカデミー（短大相当）としての位置付けが与えられ，DⅠ～DⅢの3段階のディプロマ訓練コースが実施されることとなった。このため，マスタープランを修正し，R/D期間内に，日本側の協力のもと，DⅠコースの実施とDⅡ，DⅢコースの準備を行うこととなった。

R/D終了を半年後に控えた昭和63年4月にエバリュエーション調査を行ったが，その結果，協力期間を平成2年10月まで2年間延長することが決定された。

今回の計画打合せ調査団は，R/D延長から約半年後のプロジェクトの進捗状況及び問題点を把握するとともに，今後の協力計画についてインドネシア側と協議を行うことを主たる目的として派遣されたものである。

1—2　調査団の構成

(1)	団長（総　括）	麦島正靖	郵政省通信政策局国際協力課課長補佐
(2)	団員（訓練計画）	福島祥行	NHK番組制作局教育番組センター 学校教育チーフプロデューサー
(3)	団員（業務調整）	湊　芳郎	JICA社会開発協力部海外センター課

1—3　調査日程

月　日	曜日	行　　程	内　　容
3／20	月	東京→ジャカルタ	移動（GA-873）
21	火	ジャカルタ	情報省次官，RTF総局長，情報研究開発委員会委員長，計画部長及び国家開発計画庁科学研究担当局長各表敬
22	水	ジャカルタ→ジョグジャカルタ	JICA事務所打合せ。移動（GA-436）。JICA専門家との協議
23	木	ジョグジャカルタ	MMTCとの協議。施設，機材視察。JICA専門家との協議
24	金	〃	団内打合せ
25	土	ジョグジャカルタ→ジャカルタ	MMTCとの協議。移動（GA-439）
26	日	ジャカルタ	資料整理
27	月	〃	ミニッツ署名
28	火	〃	JICA事務所，日本大使館への報告
29	水	ジャカルタ→東京	移動（CX-710，CX-500）

1—4　主要面談者

(1)　インドネシア側

Emir H. Mangaweang	情報省次官
Alex Leo Zulkarnain	〃　RTF総局長
Fauzi Rachmadi	〃　情報研究開発委員会委員長
B. Sembiring	〃　〃　情報技術局長
Paulus Sumute	〃　財務局長
M. Mananka	〃　計画局計画部長
Astrid S. Susanto	国家開発計画庁科学研究担当局長
Willy A. Karamoy	MMTC所長
Togar Lumban Radja	〃　総務部長
Halim Nasir	〃　教務部長
M. Kosasih	〃　技術部長

(2)　日本側

浅野文昭	日本大使館一等書記官
北野康夫	JICAインドネシア事務所長
布施　淳	〃　所員
長谷川　晃	プロジェクト派遣専門家（リーダー兼番組編成兼報道）
池城　直	〃　（調整員）
下地　昇	〃　（送信技術）

時松佑兒	プロジェクト派遣専門家	(番組制作)
小林　修	〃	(制作・運行技術)
右田正雄	個別専門家	(放送管理)
川原義夫	〃	(テレビ放送技術)

2．調査・協議結果概要

2—1　プロジェクトの進捗状況

(1)　訓練コース実施状況

①　1988年度のＤＩコース実施状況

1988年度には，ＤＩとして設定されている５コースのうち番組制作コース，報道コース，制作・運行技術コース及び送信技術コースの４コースが実施された。これらの訓練コースには，合計329名の応募者があったが，イ側の予算の都合もあり，72名が選出され，受講した。うち66名が情報省の試験（MMTCローカルテスト）及び教育文化省の試験（国家試験）の計２回の修了試験に合格し，ＤＩの資格が付与された。

②　本訓練コースの修了式には情報大臣が出席して祝辞を述べるという大がかりなものであった由。このことは，情報省がMMTCをインドネシア放送要員の一元的，かつ，本格的な養成訓練センターとして重要視している現れであると認められる。

(2)　カウンターパートの配置

①　ＤＩの５コースに32名（番組編成７名，番組制作７名，報道３名，制作・運行技術10名，送信技術５名）のカウンターパートが配置されている。

②　報道コースについては，従来から他のコースに比べてカウンターパートの数が少なく（２名），1988年４月のエバリュエーション調査団から当該コースの実施上問題ありとして指摘されたところであるが，最近１名増員されており，イ側の誠意の現れと認められる。

③　カウンターパートについては，従来から適切な人数の配置について言及されているが，これに併せて，資質の高いカウンターパートの配置も重視すべきである旨を日・イ双方で確認した。

(3)　カウンターパートに対する技術移転の達成状況

①　ＤＩ５コースの実施に関する分については，技術移転が計画どおりに行われており，R/D終了時点までには，カウンターパート全員に対する技術移転が完了する見込みである。

②　ＤII，ＤIIIコース実施のための準備作業については，基本構想が整いつつある段階である。この面での日本の協力は，これから本格化するところであり，ＤII，ＤIIIの完全実施のためには，R/D期間終了後も何らかの形で継続して協力することが必要と思われる。また，イ側は，現状ではＤII，ＤIIIコースの自力運営は困難であるとして，日本の協力を強く期待している。

③　長期専門家のカウンターパートへの技術移転を補完するために短期専門家を派遣して

いるが，イ側の位置付けに若干の誤解が見られたため，これらの短期専門家はあくまでもディプロマコースのカウンターパートへの技術指導を行う目的で派遣されるものである旨を調査団より説明し，イ側はこれを了承・確認した。

(4) カリキュラム整備状況

① ＤＩについては，全コースともほぼ計画どおり整備されている。

② ＤIIについては，コースによって濃淡はあるが，インドネシア側の主体的な取り組みによって具体的にカリキュラム，教材等の整備が進められつつあり，JICA 専門家のこの面での協力は，これから本格化するところである。

③ ＤIIIについては，具体的なカリキュラム，教材等の整備を行うには至っていない。

(5) 教科書・教材整備状況

本センターで教官が訓練生に対して行う授業はインドネシア語であることから，教科書や教材類はインドネシア語で作成されていることが望ましい。そのため，専門家等によって作成された教科書・教材等は，カウンターパートが適宜インドネシア語に翻訳しつつある。

(6) 供与機材の活用及び維持管理状況

① 全般に，技術協力及び無償資金協力いずれの供与機材も概ね有効に活用されており，維持管理状況もほぼ良好である。

② 訓練に必要な機器はほぼ全種類揃っているが，訓練用としての数量については，一部機材に関しその絶対数が不足している。

③ 「予防保全（メンテナンス）」の考えを浸透させるために，「保守と信頼性」をテーマとする講義等を実施して意識改革を図っている。その結果，本センターにおいては，すべての機器についてチェックリストが作成され，保守線表が引かれる等して研修の成果が現れつつある。JICA 専門家は「予防保全」の考えをさらに徹底するため，「保守マニュアル」の作成を計画している。

2—2 プロジェクト実施体制

(1) 組織・要員・施設

① 1988年度においては，組織の変更はなかった。

② 1988年度において，本センターの正職員は３名増員され，69名となった。

③ 1988年度において，本センターの教官は２名増員され，26名（専任教官14名，兼任教官12名）となった。また，ＤIIコース実施のため，近く，教官２名が増員される予定である。

④ 1988年度においては，建物・施設の整備（増改築等）は行われていない。

(2) 予算

本センターの予算は，ディプロマコースを実施するための開発予算と，人件費，旅費，管理費等の通常予算とに大別されている。

① 1988年度の予算額は次のとおりである。(　)内は1987年度予算額。

開発予算額　2億4000万ルピア（2億6696万ルピア）

通常予算額　6億2860万ルピア（4億2110万ルピア）

合　計　8億6860万ルピア（6億8806万ルピア）

② 情報省（本センター）は，従来から，予算額は予算の要求額に比例するとして実質予算額にかなり大幅な水増しを行って予算要求を行ってきた。

1988年度の予算要求額は，45億376万ルピア（開発予算16億266万ルピア，通常予算29億110万ルピア）であったが，配算額は8億6860万ルピア（19.3%）であった。

(3) 合同委員会

本センターの協力開始以来一度も開催されていなかった合同委員会は，専門家の辛抱強い働きかけの末，1988年9月26日に第1回目をジャカルタにおいて開催した。情報省の幹部をはじめ関係者が本センターの存在意義を再確認し，問題点を具体的に把握することができたとの観点等から，調査団はその開催を高く評価した。次期会合は，1989年4月に開催の予定であるが，具体的な日時は未定である。

2—3 今後の実施計画

(1) 1989年度実施計画

① DⅠの全5コース（24名×5コース＝120名）を実施するとともに，DⅠの第1回4コース（番組制作，報道，制作・運行技術，送信技術）の2期分の訓練（6ヵ月間）48名の実施を予定している。

② DⅡの全8コースのうち番組制作（中級）コース，報道（中級）コース及び制作・運行技術（中級）コースの3コース（12名×3コース＝36名）の実施を予定している。

③ 上記①及び②を実施するための予算額（内示済み）は次のとおりである。

(対前年度比)

開発予算額　4億3768万ルピア（82.4%増）

通常予算額　7億5670万ルピア（20.4%増）

合　計　11億9438万ルピア（37.5%増）

④ 1989年度には，DⅡの全8コースのうち3コースの実施がイ側の主体的な取り組みによって計画されているが，イ側のこれらコースの実施体制は整いつつある段階である。

⑤ 本センターでは，3年制の放送アカデミーの実現を目指してDⅠ，DⅡ及びDⅢの実

施を期しているが，インドネシア政府及び関係機関の間では様々な議論が行われている模様である。最も特徴的なものは，MMTCは設立後4年を経過したが，未だＤＩコースだけしか実施していないのは計画と異なるとして，もしこのままの状態を継続するならば，MMTCの格付けを引き下げる(具体的にはMMTCの組織を簡略化し，所長の格付けを低くする)というものである。そのため，情報省は，日本とのR/Dやミニッツに基づく信義，大統領令の権威，理念と実績等を踏まえた上で，1989年度からＤIIの一部を実施して，上記の議論への反論を行いたいとしている。

⑥ 一方で情報省は，ＤII，ＤIIIへの拡大に関し，追加無償資金協力と技術協力延長について日本に援助を仰いでいる今，ＤIIの一部コースの自主的開始は，これら協力の必要性を否定するものとして受け取られることを憂慮している。

(2) ＤII，ＤIIIの実施計画

① ＤIIについては，1989年度に全8コースのうちの3コース（番組制作，報道，制作・運行技術）の実施を計画。1990年度には4コース，1991年度には6コース，1992年度から全8コースの実施を予定している。

② ＤIIIについては，1992年度に全11コースのうちの6コース，1993年度にその他の5コースの実施を予定している。

③ ＤII及びＤIIIの実施に関してイ側は，実施に必要な施設，機材等が完備されることを前提としている。

④ テキストについて，ＤＩテキストは，概ねＤＩ，ＤII及びＤIIIをカバーするものとして作成されている。

⑤ ＤII及びＤIIIコースの実施とそのカリキュラムについては，既にインドネシア側に基本的な構想があり，計画もあるが，非現実的な面もあるため，日本の放送事業実施の経験からみて，また，インドネシア国の実態に合うように改善する必要があるとして，現在，JICA 専門家が改善案を作成し，アドバイス・指導を行っている。

(3) 追加無償資金協力及び技術協力の延長について

① イ側から調査団に対し，1989年度にＤII全8コースのうちの3コースを（国内対策の見地から）実施する予定ではあるが，ＤII及びＤIIIコースに係る施設，及び機材の追加整備は不可欠である旨説明があり，施設及び機器の追加無償資金協力について強い要請があった。

調査団はこれに対し，本国の関係者にこの旨伝達すると回答し，イ側はこれを了承した。

② また，ＤII及びＤIIIの実施に当たっては，イ側の現況からみて即時の自主運営は困難であり，我が国の技術協力を何らかの形で継続していくことが必要であると思われる。

(4) その他

① イ側は，ＤII及びＤIIIの実施のための追加無償資金協力の実現に向けて，R/D及びミニッツでの約束ごとを改めて認識した上で調査団との協議に臨み，終始誠意ある態度で対応した。

② イ側は，1989年度にはＤＩの全５コース120名，ＤＩ第１回補講の４コース48名，ＤIIの３コース36名の計204名の訓練を計画し，このための予算として11億9438万ルピアを確保している。ディプロマコースのための開発予算については前年度の82.4%増の伸びとなっている。調査団は，これはイ側がR/D，ミニッツ等の日本との約束ごとを最大限に遵守しようとする誠意の現れであるとして高く評価した。

③ R/Dでは本センターの訓練対象者を情報省職員に限定しているが，教育文化省，公共事業省，家族計画調整委員会等の他省庁等から情報省に対し，「本センターの公開」を求める声が上がっている模様である。

その理由とするところは，本センターの機器の多くは他のラジオ局やテレビ局に比べてより一層高度な新鋭機器である。これが原因となって，より本質的な科学技術を本センターで学びたいという熱意が高まってきており，他の機関で教える情報伝達科学が相対的に時代遅れのものとなってしまった。結果として，本センターの外側から，多くの人が本センターで勉強したいと願うようになった。

もし，本センターがこうした要望の高まりに対処しないと，こうした現象は，いつか政治問題化するであろうと情報省は危惧している模様である。しかし，今回の公式協議の席上では，イ側から本件についての発言はなく，調査団としても専門家等から情報収集を行うにとどめた。

④ ＤＩコース以外の訓練実施状況

本訓練センターでは，ディプロマコースに対する予算（開発予算）の不足を補い，また政策的配慮及び施設の有効利用を図る等の観点から，インドネシア・テレビジョン放送訓練センター（TVRI），インドネシア・ラジオ放送訓練センター（RRI）等からの委託費により，テレビジョン放送送信技術，ラジオ放送技術等の短期研修コースが実施されている。これらのコースは，インドネシア放送要員の知識と技術を向上させる上で非常に有益な訓練であると認められるが，我が国の本訓練センターに対する協力の範囲外となるため，調査団は，これらのコースの実施に当たってはあくまでもイ側の責任において実施するものであること，また，ディプロマコースの実施を妨げない範囲で実施されたい旨の申し入れを行い，イ側はこれを了承・確認した。

3．ミニッツ

THE MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN THE JAPANESE MUTUAL CONSULTATION TEAM
AND THE MINISTRY OF INFORMATION OF THE REPUBLIC OF INDONESIA
ON THE RADIO AND TELEVISION TRAINING CENTRE PROJECT

The Japanese Mutual Consultation Team (hereinafter referred to as "The Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Masayasu Mugishima (Deputy Director, International Cooperation Division, Ministry of Posts and Telecommunications) visited the Republic of Indonesia from March 20 to March 29, 1989.

During its stay in the Republic of Indonesia, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Indonesian authorities concerned for smooth and successful implementation of the Radio and Television Training Centre Project (hereinafter referred to as "the Project").

As a result of the discussions, both the Team and the Indonesian authorities concerned made the following Minutes of Meetings which is attached hereto.

Jakarta, March 27, 1989

Mr. Masayasu Mugishima
Leader,
Mutual Consultation Team,
Japan International
Cooperation Agency,
J A P A N

Mr. Emir H. Mangaweang
Secretary General,
Ministry of Information,
THE REPUBLIC OF INDONESIA

THE ATTACHED DOCUMENT

I. TRAINING ACTIVITIES

1. The Indonesian side explained the present state of training activities as follows;

   (1) Diploma I (D I) courses have been making a good progress year by year. All the five training courses with 120 trainees based on the modified Master Plan in the Minutes of Meetings signed on September 19, 1986; April 15, 1988 and August 8, 1988 and the supplementary courses for the first-batch trainees are to be conducted in fiscal 1989.

   (2) As for Diploma II (D II) program, three training courses out of planned eight courses are to be conducted in fiscal 1989, in the framework of development on D II and D III programs, expecting the further completion of facilities and equipment.

   (3) Besides above mentioned Diploma courses, short-term training for the staffs on the basis of the Ministry of Information Education Scheme (so called "Enrichment Course") was occasionally conducted when facilities and equipment were available.

2. The Team stated and requested as follows on the above-mentioned matters, and the Indonesian side agreed to them.

   (1) The Team highly appreciated Indonesian side for their endeavours so far, however, strongly requested them to continue their effort for the successful implementation of D I program.

   (2) As for the said D II courses, the Team pointed out that the Japanese Technical Cooperation is limited to assist and advise Indonesian counterpart personnel in conducting D I courses and for the preparation of D II and D III courses especially on the provision of the curricula and the textbooks according to the Minutes of Meetings signed on September 19, 1986; April 15, 1988 and August 8, 1988.

   (3) The Team recognized that Enrichment Courses are also effective for the development of knowledge and skills on program-productions and broadcasting in Indonesia, but stated that those courses should be implemented on the responsibility of Indonesian side under the condition that those courses would not disturb the implementation of D I courses.

II. TECHNICAL TRANSFER

Both the Team and Indonesian side recognized the state of the technical transfer to the Indonesian counterpart personnel as follows;

(1) The technical transfer necessary for conducting D I courses has been going fairly well, and will be completed by the end of the Technical Cooperation period.

(2) Preparation for opening D II and D III courses has been going almost as scheduled, and will also be completed by the end of the Technical Cooperation period.

(3) The establishment of maintenance system is very important for successful completion of the Project.

(4) The manpower planning of Indonesian counterpart personnel should be prepared both in suitable quality and quantity.

III. OTHERS

Indonesian side strongly requested the Grant Aid for the expansion of the Radio and Television Training Centre, and the Team answered to convey it to the authorities concerned in Japan.

4．プロジェクトの進捗状況

4—1　訓練コースの実施状況及び今後の計画

(1)　ＤＩコース実施状況

ＤＩコース実施状況の概要は次のとおりである。

（単位：人）

回　　数	期　　間	コース（分野）名	訓練生数	合格者数	応募者数
第１回 ＢⅡ＋ＢⅢ →ＤＩの １学期分	1985．7．31 ～1986．2．18	番組制作	12	12	358
		報道	12	9	
		制作・運行技術	29	26	
		送信技術	19	14	
		合　計	72	61 （MMTC ローカル テスト 合格者）	
第２回	1986．4．12 ～1987．3．17	番組制作	20	18	241
		制作・運行技術	20	18	
		合　計	40	36 （DI合格者）	
第３回	1987．4．27 ～1988．3．26	番組制作	20	19	213
		報道	20	19	
		制作・運行技術	20	18	
		合　計	60	56 （DI合格者）	
第４回	1988．4．16 ～1989．3．18	番組制作	18	17	329
		報道	18	16	
		制作・運行技術	18	17	
		送信技術	18	16	
		合　計	72	66 （DI合格者）	

①　ＤＩコースは，1985年度以降，毎年実施されており，本年３月には第４回が終了し，この間に158名（36名＋56名＋66名）のＤ･Ｉコース合格者を輩出した。

ただし，第１回はベーシック・コースの基礎II，IIIの計６ヵ月の実施である。これはＤＩコースとしては，１学期分に当たり，修了資格を得るに至っていないため，1989年度に，ＤＩコースの補講・２学期分が実施される予定である。

②　ＤＩコースの訓練生はインドネシア情報省の職員であり，各機関から推薦された

者の中から，MMTCによる書類選考によって選出されている。過去4回の平均競争率4.7倍という難関をくぐり抜けた訓練生の多くは，インドネシアにおける放送の将来を担う，実務経験2～3年の若年層で占められている。

③ ＤＩコース修了の資格を得るためには，MMTC（情報省）の修了試験及び教育文化省の国家試験の計2回の試験に合格することが義務づけられている。これまで第2回，第3回及び第4回のＤＩコースにおいて，計172名が受験し，158名が合格している。

第1回の訓練生については，MMTCの修了試験のみが実施され61名が合格している。教育文化省の国家試験は，ＤＩコース2学期分修了後に受験資格を得る。

④ 第2回及び第3回のＤＩコース修了者(92名)は職場復帰後，その72%がMMTCにおける成績によって昇進をしている。

また，制作作品がコンクールで入賞する者，MMTCの教官（C/P）に起用される者等，すでに各分野で活躍する者が現れている。

ＤＩコースの計画と実績を比較した実施状況表を次頁に示す。

ＤＩコース実施状況表

科目	区分	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	訓練生合計
		4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	
1．番組編成 (Programme Compilation and Planning)	専門家	'84.5/16	白石 克巳	10/5 10/15	長谷川 晃	10/21	
	計画	ＢＩ ＢII	BIII	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	
	実施						
2．番組制作 (Programme lines Producer)	専門家	'84.7/2	坂元 多	10/5 10/15	鈴木 勇 10/10 10/21	時松 佑兒	'90.10/21
	計画	ＢＩ ＢII	BIII	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	1期第二学期
	実施	7/31 2/18 ＤＩ (12/12)	4/12 3/17 ＤＩ (20/18)	4/17 1期第二学期 3/26 ＤＩ (20/19)	4/16 3/18 ＤＩ (18/17)		70/66
3．報道 (News and Current Affairs Reportor)	専門家	'84.7/2 磯部 洋一郎	7/1 7/12	福岡 燕 7/11			
	計画	ＢＩ ＢII	BIII	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	1期第二学期
	実施	ＤＩ (12/9)		1期第二学期 ＤＩ (20/19)	ＤＩ (18/16)		50/44
4．制作・運行技術 (Studio and Master Control Technic Operation)	専門家	'84.7/2 園田 修一郎	7/1 9/20	加藤 勉	9/29 10/10	小林 修	'90.10/21
		'84.7/2 伊藤 晃二 9/12	6/18 館 和夫	6/17 10/5	岡野 正二 10/21		
	計画	ＢＩ ＢII	BIII	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	1期第二学期
	実施	ＤＩ (29/26)	ＤＩ (20/18)	1期第二学期 ＤＩ (20/18)	ＤＩ (18/17)		87/79
5．送信技術 (Transmission Operator)	専門家	'84.6/15	佐藤 文雄	10/5 10/15	下地 昇	10/21	
	計画	ＢＩ ＢII	BIII	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	ＤＩ	1期第二学期
	実施	ＤＩ (19/14)		1期第二学期	ＤＩ (18/16)		37/30
6．調整員 (Coordinator)		'84.5/10 柴田 信二	6/27 5/12	10/5 浦上 浩三 10/15	池城 直	10/21	
訓練生合計		72/61	40/36	60/56	72/66		244/219

実施欄の（ ）内数字，及び訓練生合計欄の数字は，上記は訓練生数／下記は合格者数を示す。

(2) ＤＩコースの今後の実施計画

第５回ＤＩコース及び第１回ＤＩコース補講（２学期分）の実施計画は次のとおりである。

（単位：人）

回　　数	期　　間	コース（分野）名	訓練生数	応募者数
第5回	1989．4．4 ～1990．3	番組編成	24	387
		番組制作	24	
		報道	24	
		制作・運行技術	24	
		送信技術	24	
		合　計	120	
第1回 補講 (DI・2学期分)	1989．9 ～1990．3	番組制作	12	48
		報道	9	
		制作・運行技術	18	
		送信技術	9	
		合　計	48	

① 第５回ＤＩコースにおいて，「番組編成コース」が初めて実施される。これによって，R/Dにおいて確認されたＤＩの５コースすべてが同時に実施されることになる。訓練生は各コースとも24名とし，合計120名を予定している。

② 第１回ＤＩコース１学期分のみの修了者を対象に補講（２学期分）の実施を計画したところ，MMTCの修了試験合格者61名のうち，48名が受講を希望した。

従って，1989年度におけるＤＩコースの訓練生はＤＩの５コース120名，ＤＩ補講（４コース）48名，計168名となる。

これらのコースは，緊縮財政下にもかかわらずMMTC関係者の予算獲得に対する尽力の結果であり，インドネシア側のR/Dに基づくディプロマコースの実施に向けての意欲の現れとして高く評価することができる。

今後は，ＤＩの５コース実施を継続し，訓練生に対するカウンターパート（教官）の指導力の向上及び教科内容の充実のため，予算の一層の確保が望まれるところである。

ＤＩコースに関する1989年度以降の実施計画表を次頁に示す。

DIコース実施計画表

1989年3月現在

科目 ＼ 年月	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年
	4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3
1．番組編成 (Programmes Compilation Planning)	24人	24人	24人	24人	24人	
2．番組制作 (Programme Lines Production)	24人	24人	24人	24人	24人	
	12人 1985年度後期分					
3．報道 (News and Current Affairs Reporting)	24人	24人	24人	24人	24人	
	9人 1985年度後期分					
4．制作・運行技術 (Studio and Master Control Technique Operation)	24人	24人	24人	24人	24人	
	18人 1985年度後期分					
5．送信技術 (Transmission Operation)	24人	24人	24人	24人	24人	
	9人 1985年度後期分					
訓練生合計	120人＋48人	120人	120人	120人	120人	

(3) ＤⅡコースの今後の実施計画

インドネシア側は，ＤⅡコースについて，計画している全８コースのうちの３コースを1989年度に実施する予定であり，その概要は次のとおりである。

区分	期　間	コ　ー　ス　名	訓練生
ＤⅡ	1989年４月 ～90年３月	部門別番組制作	12
		番組／ニュース原稿執筆	12
		スタジオ制作技術	12
		合　　計	36

① MMTCは1985年７月に開所したが，その前日付けの大統領令により，インドネシア側はMMTCをアカデミー（短大相当）として位置づけた。ＤＩコースのみの実施では，アカデミーとしての機能を果たし得ないとするインドネシア側の判断によって，1989年度よりＤⅡコースの一部を実施することとしている。

② 実施される３コースは，各放送現場のニーズ及びMMTCに設置されている機材・設備等の状況に照らし合わせて，選定された。

訓練生36名は，ＤＩコース合格者のうち，成績上位の者から選ばれた。

③ ＤⅡ及びＤⅢコース実施のための準備作業として，JICA専門家はカリキュラム及び教材作成に関するインドネシア側への指導・助言に当たっている。

カリキュラムについては既にインドネシア側が主体的に作成したものが準備されているが，教材については各教官(C/P)が所有するノートをそれに当てようとしているのが実情であり，体系的，組織的な教材の作成には至っていない。カリキュラムの内容充実はもとより，教材作成及びその整理に関するJICA専門家の具体的なアドバイスが，今後一層必要とされている。

インドネシア側が考えているＤⅡ及びＤⅢコースの実施計画を次頁に示す。

ＤⅡコース実施計画表

科目	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年
	4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3
1．放送番組企画 (Programmes Broadcasting Planning)			12人	12人	12人	
2．部門別番組制作 (Program Package Production)	12人	12人	12人	12人	12人	
3．放送ジャーナリズム (Broadcast Journalism)				12人	12人	
4．番組／ニュース原稿執筆 (Script/Story Writings)	12人	12人	12人	12人	12人	
5．放送パフォーマンス (Broadcasting Performance)				12人	12人	
6．スタジオ制作技術 (Studio Production Technique)	12人	12人	12人	12人	12人	
7．送信技術 (Transmission Technique)			12人	12人	12人	
8．修理技術 (Technical Repair)		12人	12人	12人	12人	
訓練生合計	36人	48人	72人	96人	96人	

D III コース実施計画表

科目	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年
	4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1 2 3
1．放送管理 (Broadcasting Management)					12人	
2．ニュース，報道番組制作 (Program News & Information Productions)				12人		
3．教育，宗教番組制作 (Program Education & Religion Productions)				12人		
4．文化，娯楽番組制作 (Program Cultural & Entertaiment Production)				12人		
5．スタジオ制作美術デザイン (Technical & Artistic Production Designs)					12人	
6．台本執筆 (Scenario & Storyboard Writings)					12人	
7．演説およびドラマ演出 (Public Speech and Drama Castings)					12人	
8．装置技術 (Apparatus Engineering)				12人		
9．公開スタジオ，中継番組制作技術 (Open Studio & Mobile Production Engineering)					12人	
10．衛星，地上系放送技術 (Satellite & Terrestrial Transmission Engineering)				12人		
11．保守 (Maintenance)				12人		
訓練生合計				72人	60人	

(4) ディプロマコース以外の訓練実施状況

MMTCでは，R/Dに基づくディプロマコース以外にTVRI，RRI等からの委託費により，短期の技能訓練（いわゆる「エンリッチメント・トレーニング・コース」）を実施している。これは，インドネシア側の責任において，ディプロマコースの実施を妨げない範囲で，施設・機器の有効活用を図って実施しているものである。背景には，最新にして，より高度な放送施設・機器を備えたMMTCにおいて研修を希望する者が年々，増大していること，またディプロマコースに対する開発予算が不足していること等がある。

この短期の技能訓練には，インドネシア国内の各放送局，中堅クラスの放送要員が参加している。教官は，ジャカルタのTVRI，RRI等から派遣され，講義及び実習を受け持っている。その実施状況は次のとおりである。

ディプロマコース以外の訓練実施状況表

Year	Program	Duration (days)	Number of Participant	Conducted by
1985/ 1986	N I L	N I L	N I L	
1986/ 1987	-TV Transmitter	180	48	MMTC/TVTC
	-Radio Transmitter	42	25	RTC
1987/ 1988	-Radio Production	40	20	RTC
	-Radio Transmitter Maintenance	40	20	RTC
	-Radio Program Planning	40	20	RTC
	-TV Production	40	12	TVTC
	-TV Studio Engineering	210	12	TVTC
	-Microwave Engineering	21	12	TVTC
	-News Reporting & Editing	5	23	Dir. TV
	-Program Instruction of Agriculture on Radio and TV	45	22	Univ. of Gadjah-Mada.
	-TV Drama Production	30	20	TVTC.
1988/ 1989	-TV Transmitter	120	18	TVTC
	-Radio Transmitter Maintenance	40	20	RTC
	-Program Instruction of Agriculture on Radio and TV	45	24	Univ. of Gadjah-Mada
	-Teaching Methodology	12	15	MMTC-IKIP
	-Traditional Media	12	15	MMTC-ISI
	-TV Documentary & Feature	6	19	Goethe Institute /WDR/MMTC
	-Applied Statistics for Broadcast Management	22	15	MMTC-Univ of Gadjah Mada.
	-Aspects of High Technology	24	15	MMTC-Univ of Gadjah Mada.
	-Audio, Video Disc and CCD Camera	14	15	MMTC
	-Radio News Production	42	20	RTC
	-Radio Presentation/ Performance	40	20	RTC

4—2 カウンターパートの配置

インドネシア側は，ディプロマコースの充実，強化のため，「番組編成」を中心にC/Pの要員増を図ってきた。一方，JICA専門家は，各分野のC/Pに対し，有効・適切な指導を行い，能力育成に成果を上げてきている。

「1988年4月」及び「1989年3月」の分野別C/P配置比較表を次に示す。

なお，C/Pの能力育成については次項で述べる。

カウンターパート配置表

	1988年4月		1989年3月	
分　　野	人員	職　　位	人員	職　　位
番組編成	4	所　長 総務部長 総務部　2名	7	所　長 総務部長 総務部　5名
番組制作	6	教務部　2名 教　官　4名	7	教務部長 教務部　2名 教　官　4名
報道	2	教官主任 総務部，兼教官　1名	3	総務部　1名 教　官　2名
制作・運行技術	9	技術部　3名 教　官　6名	10	技術部　2名 教　官　8名
送信技術	5	技術部長 技術部　1名 教務部　1名 教　官　2名	5	技術部長 技術部　1名 教務部　1名 教　官　2名
計	26		32	

本項目に関する「C/P担当表」及び「コース別C/P配置表」を次に示す。

コース別カウンターパート担当表

1989年3月現在

	番組編成	番組制作	報道	制作・運行技術	送信技術
カウンターパート氏名	ウィリー・A・カラモイ WILLY A. KARAMOI トガール・ルンバン・ラージャ TOGAR LUMBANG RAJA タマジョ TAMADJOE モハマッド・ルスディ MOHAMMAD RUSDI ウトゥジュック・ラハルジョ UTUJUK RAHARDJO ムラトノ MULATONO エルビー・リスティオリニ ELVI LISTIORINI (ハリム・ナシール) HALIM NASIR	ハリム・ナシール HALIM NASIR ラフマド・ステジョ RACHMAD SUTEJO バンバン・ウィナルソ BAMBANG WINARSO ダルワント DARWANTO スゲン・リヤント SUGENG RIYANTO カルティーニ KARTINI ハルメン・ハーリー HARMEN HARRY	モーリス・シマトパン MAURICE SIMATUPANG ブモ・プラヨガ BMO PRAYOGA エンダン・スリスチャ・サリ ENDANG SULISUTYA SARI	スナリオ SUNARYO イピン・マドゥンピ IPING MADUMPI イスティヨ・ハルトノ ISTIYO HARTONO ルンバ・スサント LEMBAH SUSANTO スハルノ SOEHARNO イリアンディ IRIANDI ジュジュール・スティアワン DJUDJUR SETIAWAN モオリアントロ MOORYANTORO シャヒール・カンドゥン SYAHIR KANDUNG バンバン・ウィトモ BAMBANG WITOMO	コサシ M. KOSASIH ツギヨ TUGIYO スバカット SUBAKAT ジョコ・ユニアント JOKO YUNIANTO サルピー SARPI'IH
人員	7名	7名	3名	10名	5名
担当	長谷川　晃	時松佑兒	長谷川　晃	小林　修	下地　昇

カウンターパート配置表（番組編成）

カウンターパート氏名（分野別）	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
番組編成							
スンビリン HR. B. SUHBIRIN		5/16	2/1				
ウィリー・A・カラモイ HR. WILLY A. KARAMOY			2/1				
ハリム・ナシール HR. HALIM NASIR					10/15		
タマジョ HR. TAMADJOE					10/15		
モハマド・ルスディ HR. MOHAMMAD RUSDI					10/15		
		5/16 白石克己			10/15		
					10/5 長谷川亮		
トガール・ルンバン・ラジャ HR. TOGAR LUMBANG RAJA							
ムラトノ HR. MULATONO							
エルビー・リスティオリニ HS. ELVI LISTIORINI							
ウチュック・ラハルジョ HR. UTJUK RAHARDJO							

カウンターパート配置表（報道）

カウンターパート氏名（分野別）	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
報　道							
モーリス・シマトゥパン MR. MAURICE SIMATUPANG		7/2 →	→	7/1 → 7/12 →	→	7/11 →	→
ブモ・プラヨガ MR. BMO PRAYOGA		7/2 →	→	7/1 → 7/12 →	→	7/11 →	→
インドラティ・ムナンドリ MS. INDRATI MUNANDORI			→				
スラトノ MR. SURATNO		→	→				
エンダン MS. ENDANG							2/1 →
		7/2 → 磯部洋一郎	→	7/1 → 7/12 → 須賀原	→	7/11 → 7/12 → 長谷川晃	→

カウンターパート配置表（番組制作）

カウンターパート氏名（分野別）	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
番組制作							
ハリム・ナシール HR.HALIM NASIR		7/2			10/15	10/21	
ハルディ・ソフィアン HR.HARDY SOFIAN		7/2					
リアン・パサリブ HR.RYAN PASARIBU		7/2					
ヨス・リザール HR.YOSE RIZAL		7/2					
ラフマド・ステジョ HR.RACHMAD SUTEDJO					10/15	10/21	
アナント・プラティクノ HR.ANANTO PRATIKNO		7/2					
バンバン・ウィナルソ HR.BAMBANG WINARSO			7/1		10/15	10/21	
ロマイン・ルスディ HR.ROHAIN RUSDI				10/1	10/15 3/6		
ダルワント HR.DARWANTO					1/1	10/21	
スグン・リアント HR.SUGENG RIYANTO					10/15	10/21	
カルティニ MS.KARTINI					12/1	10/21	
ハルメン・ハリー HR.HARMEN HARRY					10/15	10/21	
		7/2 坂元 多			10/15	10/10 時松俊兒	
					10/5 鈴木 勇	10/21	

カウンターパート配置表（制作技術）

カウンターパート氏名（分野別）	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
制作技術							
ロシト HR. ROSITO		7/2	9/12				
スバカット HR. SUBAKAT		7/2	9/12				
スパルト HR. SOEPARTO		7/2	9/12				
スナリオ HR. SUNARYO		7/2	9/12	6/18	6/17 10/5	10/21	
イピン・マドゥンピ HR. IPING MADUMPI					10/5	10/21	
イスティヨ・ハルトノ HR. ISTIYO HARTONO				6/18	6/17 10/5	10/21	
ルンバ・スサント HR. LEMBAH SUSANTO					10/5	10/21	
スハルノ HR. SOEHARNO					10/5	10/21	
イリアンディ HR. IRIANDI					10/5	10/21	
		7/2 伊藤晃二	9/12	6/18 諏訪和夫	6/17 10/5 岡野正二	10/21	
						10/10 小林	暦

カウンターパート配置表（運行技術）

カウンターパート氏名（分野別）	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
運行技術							
ジュジュール・スティアワン HR. DJUDJUR SETIAWAN		7/2		7/1 9/30		9/29 10/10	
モリアントロ HR. HOORYANTORO		7/2		7/1 9/30		9/29 10/10	
カンドン HR. SYAHIR KANDUNG				9/30		9/29 10/10	
バンバン・ウィトモ HR. BAMBANG WITOHO				9/30		9/29 10/10	
		7/2 園田 修一郎		7/1 9/30	加 筱 勉	9/29 10/10 小林 修	

カウンターパート配置表（送信技術）

カウンターパート氏名（分野別）	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
送信技術							
ロシト HR. ROSITO		6/15					
ダルマディ HR. DARMADI		6/15					
H.コサシ HR. H. KOSASIH		6/15			10/15		
ツギヨ HR. TUGIYO				5/1	10/15		
スバカット HR. SUBAKAT				5/1	10/15		
ジョコ・ユニアント HR. JOKO YUNIANTO				10/1	10/15		
サルピー HR. SARPI'IH				10/1	10/15		
		6/15 佐藤文雄			10/15		
					10/5	下地昇	

4—3　技術移転の達成状況及び今後の見通し

(1)　1989年３月時点での技術移転達成状況

ＤＩコース各分野ごとの技術移転の達成状況及び今後の見通しを把握するため，各カウンターパートの評価について，専門家からの個別のヒアリングを実施した。その分野別概要は次のとおりである。

分野	カウンターパート育成状況及び今後の見通し	評　価
番組編成	７人のカウンターパートのうち５人は技術移転を完了している。残る２人については，教科指導，実技指導，クラス運営等の能力向上が必要であるが，Ｒ／Ｄ終了時点では技術移転完了の見込みである。	Ａ５名 Ｂ２名
番組制作	７人のカウンターパートのうち５人は現時点で技術移転完了と考えることができる。残りの２人については，現場実習の機会を増やし，番組制作に関する知識・経験をさらに積ませる必要がある。Ｒ／Ｄ終了時点までには，完了の見込みである。	Ａ５名 Ｂ２名
報道	３人のカウンターパートのうち２人は技術移転を完了している。残りの１人については，実技指導，教材作成及び機材の操作・管理等全般的な能力伸長が望まれるが，意欲的に取り組んでおり，Ｒ／Ｄ終了時点では，完了の見込みである。	Ａ２名 Ｂ１名
制作技術	技術移転対象者６人のうち２人が完了している。残り４人が未完了であるが，２人の完了者の指導も受けつつ，実習経験を重ねながら，制作技術能力の向上を期待したい。Ｒ／Ｄの終了時には完了の見込みである。	Ａ２名 Ｂ４名
運行技術	３人のカウンターパートのうち２人が現時点で技術移転を完了している。残り１人も教科，実技指導及び機材操作，管理等において，高いレベルにあり，Ｒ／Ｄ終了時までには完了の見込みである。	Ａ２名 Ｂ１名
送信技術	５人のカウンターパートのうち４人が技術移転を完了している。残りの１人については，全般的に習得がおくれているが，現場実習を今後，積極的に取り入れる予定であり，Ｒ／Ｄ終了時点では完了の見込みである。	Ａ４名 Ｂ１名

以上，各分野の進捗状況に若干の差はあるものの，R/D終了時点までには，カウンターパート全員に対する技術移転が完了する見込みである。

専門家作成のC/Pに関する「育成状況評価表」「訓練科目別教科指導能力評価表」を次に示す。

カウンターパート育成状況評価表（番組編成）

1989年３月現在

氏名	年齢	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力	総合評価
ウィリー・A・カラモイ WILLY A. KARAMOI	53	1986. 2. 1	大学	所長	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
トガール・ルンバン・ラージャ TOGAR LUMBANG RAJA	52	1986. 5. 1	大学	総務部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
タマジョ TAMADJOE	32	1986. 5. 1	大学	総務部副部長	A	A	B	A	A	A	B	A	A	A
モハマッド・ルスディ MOHAMMAD RUSDI BSC	34	1986. 10. 1	大学	総務部	A	A	A	B	A	A	A	B	A	A
ウチュック・ラハルジョ UTJUK RAHARDJO	34	1988. 8. 1	大学	総務部	B	A	B	A	A	A	B	A	B	B
ムラトノ MULATONO	37	1986. 10. 1	高校	総務部	B	B	A	B	A	B	A	A	B	B
エルビー・リスティオリニ ELVI LISTIORINI	28	1986. 5. 1	大学	総務部秘書	A	A	A	A	A	A	A	B	B	A

評価基準　A：評価時点で習得　B：R／D終了時までに習得可　C：R／D終了時までに習得未完了

カウンターパート育成状況評価表（番組制作）

1989年３月現在

氏名	年齢	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力	総合評価
ハリム・ナシール HALIM NASIR	52	1984．７．２	専門学校	教務部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
ラフマド・ステジョ RACHMAD SUTEJO	44	1986．５．１	大学	教務部副部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
バンバン・ウィナルソ BAMBANG WINARSO	36	1986．５．１	大学	教務部副部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
スゲン・リヤント SUGENG RIYANTO	43	1987．７．１	大学	教官	A	A	A	A	A	A	A	A		A
ダルワント DARWANTO	55	1988．１．１	大学	教官	B	A	A	A	B	C	C	B		B
カルティーニ KARTINI	35	1987．12．１	大学	教官	B	A	B	B	A	C	A	C		B
ハルメン・ハーリー HARMEN HARRY	34	1986．５．１	高校	教官	A	A	A	A	A	A	A	A		A

評価基準　A：評価時点で習得　B：R／D終了時までに習得可　C：R／D終了時までに習得未完了

カウンターパート育成状況評価表（ニュース報道）

1989年３月現在

氏名	年齢	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力	総合評価
ブーモ・プラヨガ BMO PRAYOGA	50	1985．7	大学	総務部副部長		A	A	A	A	B	B	A	A	A
モーリス・シマトゥパン MAURICE SIMATUPANG	35	1985．7	大学	教官		A	A	A	A	B	A	A	A	A
エンダン・スリスチャ・サリ ENDANG SULISUTYA SARI	29	1989．2	大学	教官		B	B	B	B	C	C	C	B	B

評価基準　A：評価時点で習得　B：R／D終了時までに習得可　C：R／D終了時までに習得未完了

カウンターパート育成状況評価表（制作技術）

1989年３月現在

氏名	年齢	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力	総合評価
スナリオ	38	1986．５．１	３年制大学卒	技術部副部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
イビン・マドゥンビ	43	1986．５．１	工業高校・商船大学卒	技術部副部長	B	B	B	B	B	B	C	B	A	B
イスティヨ・ハルトノ	40	1986．５．１	工業高校・師範学校卒	教官	B	A	A	B	B	A	B	B	A	B
ルンバ・スサント	30	1986．５．１	工業高校卒	教官	B	A	A	B	B	A	B	A	A	B
スハルノ	36	1986．５．１	普通高校卒	教官	A	A	A	B	B	A	A	A	A	A
イリアンディ	38	1986．５．１	工業高校卒	教官（ＲＲＩ副課長兼）	B	A	A	B	B	A	B	B	A	B

評価基準　Ａ：調査時点で習得（技術移転完了）　Ｂ：Ｒ／Ｄ終了時までに習得可（技術移転完了見込み）　Ｃ：Ｒ／Ｄ終了時までに習得未完了（引き続き技術移転必要）

カウンターパート育成状況評価表（運行技術）

1989年3月現在

氏名	年齢	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力	総合評価
モリアントロ	50	1986．10．1	普通高校・航空大学校卒	教官	A	B	A	A	A	A	B	B	A	A
ジュジュール・スティアワン	36	1986．5．1	工業高校卒	教官	A	A	A	A	B	A	B	B	A	A
カンドン	36	1986．5．1	大学卒	教官	B	B	B	A	B	B	B	A	A	B

評価基準　A：調査時点で習得（技術移転完了）　B：R／D終了時までに習得可（技術移転完了見込み）　C：R／D終了時までに習得未完了（引き続き技術移転必要）

カウンターパート育成状況評価表（送信技術）

1989年３月現在

氏名	年齢	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力	総合評価
コサシ	47	1986．５．１	国立教育師範学校電子工学	技術部長	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
ツギヨ	42	1986．５．１	国立教育師範学校電気工学	教務部課長	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A
スバカット	44	1986．５．１	高校卒	技術部課長	A	B	B	B	A	B	A	A	A	A
ジョコ・ユニアント	31	1986．10．１	高校卒	教官	A	A	A	B	B	A	B	B	A	A
サルビー	42	1986．10．１	高校卒	教官	B	B	B	B	C	A	B	B	C	B

評価基準　A：調査時点で習得（技術移転完了）　B：R／D終了時までに習得可（技術移転完了見込み）　C：R／D終了時までに習得未完了（引き続き技術移転必要）

訓練科目別教科指導能力評価表

1989年３月

科　目	課　　題	カウンターパート氏名						
		ハリム・ナシール	バンバン・ウィナルソ	ラフマド・ステジョ	スグン・リヤント	タルワント	カルティニ	ハルメン・ハーリー
番組制作	調査方法入門			A				
	制作管理入門	A	A			B	B	
	番組制作入門ＲＴ	A	A		A	A	B	A
	原稿執筆	A	A		A	B	A	A
	個別番組制作	A	A		A	B	B	A
	番組美学	A	A			B		A
	実習	A	A	A	A	A	B	A

評価基準　Ａ：調査時点で習得　Ｂ：Ｒ／Ｄ終了時までに習得可
Ｃ：Ｒ／Ｄ終了時までに習得未完了

訓練科目別実技指導能力評価表

1989年３月

科　目	課　　題	カウンターパート氏名						
		ハリム・ナシール	バンバン・ウィナルソ	ラフマド・ステジョ	スグン・リヤント	タルワント	カルティニ	ハルメン・ハーリー
番組制作	制作管理入門	A	A	A		B	B	
	番組制作入門	A	A		A	A	B*	A
	放送番組と経営管理	A	A	A		B	B	
	スクリプトの書き方	A	A			A	A	A
	制作管理	A	A	A		B	B	
	個別番組制作	A	A		A	A	A	A
	番組美学	A	A			B	B	A
	実習	A	A	A	A	A	A	A

評価基準　Ａ：調査時点で習得　Ｂ：Ｒ／Ｄ終了時までに習得可
Ｃ：Ｒ／Ｄ終了時までに習得未完了

訓練科目別教科指導能力評価表

1989年3月

科　目	課　　題	カウンターパート氏名		
		ブーモ・ブラヨガ	モーリス・シマトパン	エンダン・スリスチャ
ニュース報道	マスコミュニケーション論	A	A	A
	ジャーナリズム倫理	A	A	B
	ラジオジャーナリズム論	A	A	A
	テレビジャーナリズム論	A	A	B
	ニュース番組の要素	A	A	A
	ニュース報道番組制作	A	A	B
	訓練の管理・運営	A	A	A
	実習作品の評価法	B	B	B
	資料ファイリング法	A	A	A

評価基準　A：調査時点で習得　B：R／D終了時までに習得可
C：R／D終了時までに習得未完了

訓練科目別実技指導能力評価表

1989年3月

科　目	課　　題	カウンターパート氏名		
		ブーモ・ブラヨガ	モーリス・シマトパン	エンダン・スリスチャ
ニュース報道	ニュース原稿の書き方	A	A	B
	インタビューの仕方	A	A	A
	フィーチュアー番組の制作	B	B	B
	映像編集技法	B	B	C
	撮影技法	B	B	C
	ボイス・リポートの仕方	A	A	A
	ニュース番組制作	A	B	B
	スポーツ番組制作	B	B	B

評価基準　A：調査時点で習得　B：R／D終了時までに習得可
C：R／D終了時までに習得未完了

訓練科目別教科一実技指導能力評価表
（制作技術）

1989年３月現在

科　目	課　題	カウンターパート氏名					
		ｽﾅﾘｵ	ｲﾋﾟﾝ	ｲｽﾃｨｵ	ｶﾝﾊﾞ	ｽﾊﾙﾉ	ｲﾘｱﾝﾃｨ
制作技術	数学						
	電気理論・ディジタル技術						
	測定技術						
	音声・映像技術Ⅰ				B		
	音声・映像技術Ⅱ				B		
	スタジオ制作技術Ⅰ	A	B				
	スタジオ制作技術Ⅱ	A	B				
	音声・映像機器技術						B
	照明と測光技術			B		B	
	番組制作実習Ⅰ	A	B	A	A	A	A
	番組制作実習Ⅱ	A	B	A	A	A	A

評価基準　A：調査時点で習得（技術移転完了）　B：R／D終了時までに習得可（技術移転完了見込み）

C：R／D終了時までに習得未完了（引き続き技術移転必要）

訓練科目別教科一実技指導能力評価表
（運行技術）

1989年３月現在

科　目	課　題	カウンターパート氏名		
		ﾓﾘｱﾝﾄﾛ	ｼｭｼｭｰﾙ	ｶﾝﾄﾝ
制作技術	数学			A
	電気理論・ディジタル技術			A
	測定技術			A
	音声・映像技術Ⅰ			
	音声・映像技術Ⅱ			
	スタジオ制作技術Ⅰ			
	スタジオ制作技術Ⅱ			
	音声・映像機器技術		A	A
	照明と測光技術			
	番組制作実習Ⅰ	A	A	B
	番組制作実習Ⅱ	A	A	B

評価基準　A：調査時点で習得（技術移転完了）　B：R／D終了時までに習得可（技術移転完了見込み）

C：R／D終了時までに習得未完了（引き続き技術移転必要）

訓練科目別教科指導能力評価表

1989年３月現在

科　目	課　　題	カウンターパート氏名				
		ｺｻｼ	ﾂﾈﾖ	ｽﾊﾞｶｯﾄ	ｼｮｺ	ｻﾙﾋﾞｰ
送信技術	数学	A	A	A	A	B
	電気理論	A	A	A	A	B
	電子回路	A	A	A	A	B
	ディジタル技術	A	A	B	A	B
	音声・映像技術Ⅰ	A	A	A	A	B
	音声・映像技術Ⅱ	A	A	A	A	B
	高周波回路	A	B	B	A	A
	空中線と電波伝播	A	B	B	B	C
	伝送技術	A	B	B	A	B
	測定技術と測定器	A	B	B	A	B
	送信機技術	A	B	B	A	A
	電子回路実習	A	A	A	A	B
	測定実習	A	B	B	A	B

評価基準　A：調査時点で習得（技術移転完了）　B：R／D終了時までに習得可（技術移転完了見込み）

C：R／D終了時までに習得未完了（引き続き技術移転必要）

訓練科目別実技指導能力評価表

1989年３月現在

科　目	課　　題	カウンターパート氏名				
		ｺｻｼ	ﾂﾈﾖ	ｽﾊﾞｶｯﾄ	ｼｮｺ	ｻﾙﾋﾞｰ
送信技術	電気理論	A	A	A	A	B
	電子回路	A	A	A	A	B
	ディジタル技術	A	A	B	A	B
	音声・映像技術Ⅰ	A	A	A	A	B
	音声・映像技術Ⅱ	A	A	A	A	B
	高周波回路	A	B	B	A	A
	空中線と電波伝播	A	B	B	B	C
	伝送技術	A	B	B	A	B
	測定技術と測定器	A	B	B	A	B
	送信機技術	A	B	B	A	A

評価基準　A：調査時点で習得（技術移転完了）　B：R／D終了時までに習得可（技術移転完了見込み）

C：R／D終了時までに習得未完了（引き続き技術移転必要）

(2) 専門家チームによるカウンターパート意向調査の実施

専門家チームは，カウンターパートがMMTCにおける研修に対して何を期待し，何を学びたいのか，その意向を探り，今後の技術移転の指針とするため，アンケート調査を行い（本年1～3月），その結果をまとめたのが次頁のWHO' S WHOである。

調査結果によると，放送関係では「ドラマ」「ニュース」「ドキュメンタリー」等放送全般に関心が高く，また「教育放送」や「視聴率調査」等にも興味を示している。

技術関係では，「放送技術の最新情報」に関心が集中しており，中でも「CCD」「HDTV」等，テレビの最先端技術に関する情報を求めている。専門家は，このアンケート調査で得たカウンターパートの意向を今後の指導計画に可能な限り生かし，一層効果的な技術移転を目指している。

専門家作成の「カウンターパートアンケート内容」を次に示す。

ANGKET UNTUK PERLUASAN
KERJASAMA MMTC & JICA EXPERTS
QUESTIONNAIRE FOR THE BETTER COOPERATION
BY JICA EXPERTS

Q 1. Riwayal Sekolah
Education Background

(NAMA)

(Tempat asal)

Tuliskan riwayat pendidikan Saudara
Please mention your school careers.

(Lahun) (year)	(nama sekolah) (school nama)	(fakultas) (faculty)
1.		
2.		
3.		
4.		

Q 2. Pengalaman
Experience

Jelaskan pengalaman Saudara sebagai ahli dalam bidang penyiaran.
Please mention your experience as a specialist on the TV and/or Radio.

(bigang) (divison)	(Lugas, lempal bekerja) (job, place of work)
1.	
2.	
3.	

Q 3. Keahlian
Specially

Jelaskan bidang Keahlian utama yang Sandara miliki.
Please mention your major fields and specialities.

▲ pengetahuan
expert knowledges

▲ Keahlian yang dapat Saudara banggakan
expert skills which you can be proud of

▲ pengetahuan yang menarik Saudara
subject in which you are interested

Q 4. Keinginan
Ambilion

Apa yang Saudara harapkan dimas yang akan datang schubungan dengan keahlian dalam
bidang siaran; insluktur di MMTC. dll.

What do you expext for the future as a specialist on the broadcasting;
MMTC INSTRUCTOR, etc

Q 5. Permintaan kepada Tenaga Ahli JICA
Requirement to JICA Experts

Pengelahuan apakah yang ingin Saudara dapalkan dari JICA Exterts?
What kinds of knowledge do you require from the JICA Experts?

WHO' S WHO

1989. 3. 22

氏　　名	(年齢)	担　　当	学　　歴	経　　歴	専　門　性	将来への希望	関心あるテーマ
カラモイ W. Karamoy	1 (53)	MMTC所長 ジャーナリスト論	インドネシア・ カンサス大学	新聞・RRI TVRI	ジャーナリスト 管理・編成	開発援助の為のコミュニケーション	「コミュニケーション」
ラハルジョ Rahardjo	2 (34)	総務部 英語	スプラスマレ大 (ソロ)	RRIソロ アナ・キャス	英語・ラジオ キャスター・番組	放送専門家 ラジオ局長	放送管理・日本の放送の知識
ハリム・ナシール H. Nasir	3 (52)	教務部長 番組制作統括	国立演劇アカデミー・カナダ他	TVジャカルタ・スラバヤ	ドラマ・映画	教授法	番組編成法
ラフマド・ステジョ R. Sutedjo	4 (44)	教務部副部長 世論調査	バンドン工科大 インドネシア大	TVジャカルタ・管理	犯罪学	インストラクター	視聴率調査
ツギヨ Tugiyo	5 (42)	教務部副部長	教育大学	TVジョク	照明・音声・カメラ スタジオ・保守技術	電気・デジタル・音声技術	カリキュラム・機器保守・デジタル
バンバン・ウィナルソ B. Winarso	6 (36)	教務部副部長 番組制作	ムストボ大学	TVジャカルタ	制作管理・演出 スクリプト	放送管理	演出論「小津安」 ドキュメンタリー
カルティーニ Kartini	7 (35)	総務部 番組制作	教育大学	RRIアナ バンドン	教育・ラジオ	ラジオ・テレビに関する知識	ラジオ・テレビ
ダルワント Darwanto	8 (55)	教務部 番組制作主任	師範学校	TVジョク・ メダン・スラ	TV教育・放送管理	教育TV・放送管理	TV教育・放送管理
プラヨガ B. Prayoga	9 (50)	ニュース・報道	大学		カメラマン	知識・技術の教授	ジャーナリズム・ニュースコメント
タマジョ Tamadjoe	10 (32)	総務経理 ニュース・報道	ウジュンパンダ ジャカルタ大	DEPPEN	経理・予算管理 システム	ニュースの理論と実際	ニュースの理論 情報と伝達
ハルメン・ハーリー H. Hary	11 (34)	番組制作 美術デザイナー	普通高校	TVメダン	ステージセット・グラフィックデザイン	番組制作・美術 アニメ制作	TV番組・特殊効果 アニメーション
コサシ M. Kosasih	12 (48)	技術部長	教育大学	TVバンドン TV訓練所	数学・電気・送信 マイクロウェイヴ	放送管理者 スタジオ・送信	放送管理 スタジオ機器・送信
スナリオ Snaryo	13 (38)	技術部副部長					

氏　　名	(年齢)	担　　当	学　　歴	経　　歴	専　門　性	将来への希望	関心あるテーマ
スバカット Subakat	14 (38)	技術部副部長 スタジオ技術	普通高校	ＲＲＩジャカルタ	ラジオ制作技術 パブリクアドレス	音響デザイン 音響効果	音響デザイン
イビン I. Madumpi	15 (42)	技術部副部長 資料担当	商船大学	ＲＲＩジャカルタ・保守	ラジオ放送技術	外録のライン・リンク・システム	ラジオの見直し ドキュメンタリー
カンドン S. Kandung	16 (36)	制作技術 教務主任	大学 電気・管理	ＴＶウジュンパンダ	電気技術・放送 管理運営・制作技術	ＴＶ放送専門家	リサーチ・短波放送 放送技術・番組制作
ジョコ Yunianto	17 (32)	送信技術主任 ＴＶ送信	普通高校・ 教育大中退	ＴＶジャカルタ	ＴＶ送信技術 測定・アンテナ	ＴＶ送信技術	Ｒ・ＴＶ送信技術 アンテナ・デジタル
サルピー Sarpi'ih	18 (43)	送信技術	普通高校	ＲＲＩボゴール	スタジオ技術	Ｒ・ＴＶ送信・ 送信機保守	Ｒ・ＴＶ技術
ハルトノ I. Hartono	19 (40)	インストラクター 庶務担当・制作技術	師範学校 工業高校	ＴＶジョク	スタジオ技術 カメラ照明	テレビ照明の技術	制作技術ＣＣＤ・ＨＤＴＶドラマ・芸能
スサント I. Susanto	20 (39)	保守技術	工業高校	ＴＶジャカルタ・スラバヤ	保守（音声機器） 調整・測定		スタジオ技術ＣＣＤ ＨＤＴＶ・デジタル
スハルノ Soeharno	21 (36)	保守技術	普通高校	ＴＶ訓練所	スタジオ保守技術 スタジオ施設	学生への技術移転	衛星放送・アニメ
イリアンディ Iriandi	22 (38)	制作技術	工業高校	ＲＲＩジョク	ラジオ技術	Ｒ＝Ｔ放送技術	音声技術 Ｒ＝Ｔ放送技術
ジュジュール Sotiawan	23 (35)	運行技術	工業高校				
モーリアントロ Mooryantoro	24 (50)	保守技術	普通高校 民間航空大学校	ＴＶジャカ・ジョク・バリ	高圧技術・安全		アニメ技術
バンバン・ウィトモ B. Witomo	25 (39)	フィルム現像	工業高校	ＴＶ訓練所	フィルム現像	撮影技術	撮影技術
トガール Togar Bambang R.	26 (52)	総務部部長	インドネシア大	ＲＲＩジャカルタ	総務・管理	ＭＭＴＣの拡張	ＭＭＴＣの拡張の為のカリキュラム編成
シマトパン M. Simatupang	27 (35)	総務部副部長 ニュース・報道	インドネシア大	ＴＶジャカルタ	ニュースリポーター ライター	ニュースリポータ ＥＮＧカメラ	ニュース分析 ルポルタージュ
エンダン Endung	28 (29)	総務部 ニュース・報道	ガジャマダ大バジャジャラン大	ＲＲＩジョクジャ	世論調査・開発計画 コミュニケーション	理論と実際の専門 インストラクター	開発計画・放送管理 情報処理技術

(3) 短期専門家派遣による技術移転

長期専門家によるカウンターパートへの技術移転を補完するため，適宜，短期専門家を日本から派遣している。これにより，短期専門家の高度な知識，技能がカウンターパートに伝授され，より資質の高い技術移転を可能にしてきた。1989年度には，ENG取材法，中継技術，保守技術，ニューメディア，芸能番組の演出法及び教育放送等についての短期専門家の派遣を予定している。

今後，ＤＩコースを経てより専門性の高いＤII，ＤIIIコースに展開する際に，「短期専門家派遣」は技術移転の新しい方向を示すものといえる。

短期専門家派遣実績表

年度	派遣期間	テーマ	専門家
1984	11．18～1985．1．18	運営管理	渡辺晋太郎
	12．8～1985．1．17	美術	斉藤博己
1985	6．10～9．9	運営管理	渡辺晋太郎
	1986．1．27～3．26	現像	畠山哲夫
1986	3．13～5．12	放送資料	稲田正康
	9．30～11．29	ニュース編集	高橋二三夫
	〃	照明技術	竹内正明
	11．4～12．3	電力設備保守	遠藤芳朗
1987	6．8～6．24	送信機据付	沢田武
	6．8～6．29	送信機据付	林彰
	9．9～9．22	アンテナ工学	石井晃
	11．16～12．27	音響効果	松崎茂
	〃	音声調整	篠田光昭
	1988．1．17～2．17	世論調査	横山滋
1988	11．5～12．9	①信頼性と保守	島野紀夫
	〃	②受信技術	和食暁
	〃	③映像特殊効果	河内博司

(4) ＤII，ＤIIIコース準備への助言，指導

ＤII，ＤIIIコース実施のための準備作業については，既にインドネシア側に基本的な構想があり，計画もあるが，各コースの配列や設定には基本思想として未熟な面も多く，専門家は放送事業実施の体験等から助言，指導を行うべく，準備の段階であり，具体的なカリキュラム内容，教材の整備等を行うには至っていない。この面での専門家の協力はこれから本格化するところである。

(5) 日本でのカウンターパート研修

カウンターパートの日本での研修実施状況は次のとおりであり，1989年３月末までに33名を受け入れた。

1989年度においては，インドネシア側は当初，カウンターパート6名の受入れを要望していたが，関係者との協議の結果5名を受け入れることとなっている。

日本でのカウンターパート研修実施状況

1989年３月現在

年度	No.	カウンターパート氏名（担当分野）	研　修　科　目	研修場所及び期間	研修結果	現 在 の 状 況
1983	1	ハリム・ナシール （番組制作，ニュース報道）	教育テレビ番組	ＮＨＫ 84．１．19～84．４．15	良好	ＭＭＴＣ教務部長 及び番組編成Ｃ／Ｐ
	2	アナント・プラティクノ	教育テレビ番組	ＮＨＫ 84．１．19～84．４．15	良好	ＲＲＩ UJUNG PANDANG
	3	コサシ （制作技術，送信技術）	テレビ放送技術	ＮＨＫ 84．１．19～84．４．15	良好	ＭＭＴＣ技術部長 及び送信技術Ｃ／Ｐ
	4	ツギヨ （番組制作，ニュース報道，制作技術）	テレビ放送技術	ＮＨＫ 84．１．19～84．４．15	良好	ＭＭＴＣ教務課長 及び送信技術Ｃ／Ｐ
1984	5	プモ・プラヨガ （ニュース報道）	教育番組	ＮＨＫ 84．８．２～84．10．30	良好	ＭＭＴＣ教官主任 及び報道制作Ｃ／Ｐ
	6	スギアルト	放送管理	ＮＨＫ 84．７．19～84．10．30	良好	ＴＶＲＩ YOGYAKARTA 送信課長
	7	シャーラン・ナスティオン	放送管理	ＮＨＫ 84．８．２～84．10．30	良好	ＴＶＲＩ MEDAN
	8	イビン・マドゥンビ （番組制作，ニュース報道，制作技術）	ラジオ放送技術	ＮＨＫ 84．６．　～84．９．	良好	ＭＭＴＣ文書課長 及び制作技術Ｃ／Ｐ
	9	イスティオ・ハルトノ （番組制作，ニュース報道，制作技術）	カラーテレビ技術	ＮＨＫ 84．12．　～85．２．	良好	ＭＭＴＣ教官 及び制作技術Ｃ／Ｐ
	10	ハルメン・ハリー （番組制作，ニュース報道）	テレビグラフィックデザイン	ＮＨＫ 85．２．７～85．３．30	良好	ＭＭＴＣ教官
	11	トガール・ランバン・ラジャ	管理運営	ＮＨＫ 85．２．７～85．３．30	良好	ＭＭＴＣ庶務部長
1985	12	シャーリル・カンドン （番組制作，報道，制作，送信技術）	テレビ制作技術	ＮＨＫ 85．７．18～85．11．３	良好	ＭＭＴＣ教官 及び運行技術Ｃ／Ｐ

年度	No	カウンターパート氏名（担当分野）	研　修　科　目	研修場所及び期間	研修結果	現 在 の 状 況
1985	13	インドゥラティ・ムナンダリ	番組編集	NHK 85．8．1～85．11．3	良好	TVRI YOGYAKARTA
	14	バンバン・ウィナルソ （番組制作，ニュース報道）	番組制作	NHK 85．8．1～85．11．3	良好	MMTC教務課長 及び番組制作C／P
	15	イリアンディ （制作技術）	音響技術	NHK 85．7．18～85．11．3	良好	MMTC教官 及び制作技術C／P
1986	16	ロマイン・ルスディ	教育テレビ番組	NHK 86．8．5～86．10．6	良好	（MMTC教官） 1988年3月6日死亡
	17	バンバン・ウィトモ （番組制作，ニュース報道，制作技術）	教育テレビ番組	NHK 87．1．18～87．4．5	良好	MMTC教官 及び運行技術C／P
	18	エルビ・リストリニ	放送 ライブラリー	NHK，図書館情報大学 87．1．16～87．3．31	良好	MMTC秘書
	19	モーリアントロ （番組制作，ニュース報道，制作技術）	テレビ放送技術	NHK 87．1．18～87．3．31	良好	MMTC教官 及び運行技術C／P
	20	モーリス・シマトバン （番組制作，ニュース報道，制作技術，送信技術）	ニュース 及び放送研修管理	NHK 87．3．20～87．5．21	良好	MMTC庶務課長 及び報道制作C／P
1987	21	モハマド・サルビー （送信技術）	ラジオ送信技術	NHK 87．7．20～87．10．14	良好	MMTC教官 及び送信技術C／P
	22	スハルノ （番組制作，ニュース報道，制作技術）	テレビ放送技術	NHK 87．7．20～87．11．14	良好	MMTC教官 及び制作技術C／P
	23	ジョコ・ユニアント （送信技術）	テレビ放送技術	NHK 87．7．20～87．11．4	良好	MMTC教官 及び送信技術C／P
	24	マルチナス・スバルオト	教育テレビ番組	NHK 87．7．20～87．9．21	良好	TVRI YOGYAKARTA
	25	ラフマド・ステジョ （番組制作，ニュース報道，制作，送信技術）	調査	NHK 87．11．7～87．12．4	良好	MMTC教官 及び番組制作C／P

年度	No.	カウンターパート氏名（担当分野）	研　修　科　目	研修場所及び期間	研修結果	現　在　の　状　況
1987	26	カルティーニ （番組制作）	教育テレビ番組 （上級）	ＮＨＫ 88．１．８～88．３．７	良好	ＭＭＴＣ教官 及び番組制作Ｃ／Ｐ
	27	ジュジュール・スティアワン （番組制作，ニュース報道，制作技術）	行政情報 システム	総理府行管庁 88．１．18～88．３．18	良好	ＭＭＴＣ教官 及び運行技術Ｃ／Ｐ
1988	28	タマジョ （番組制作）	テレビ放送管理	ＮＨＫ 88．５．４～88．６．17	良好	ＭＭＴＣ教官 及び番組編成Ｃ／Ｐ
	29	スバカット （制作技術，番組制作，ニュース報道）	テレビ放送技術（Ｉ）	ＮＨＫ 88．７．７～88．10．25	良好	ＭＭＴＣ技術副部長 及び送信技術Ｃ／Ｐ
	30	ルンバー・スーサンド （番組制作，ニュース報道，制作技術，送信技術）	テレビ放送技術（Ｉ）	ＮＨＫ 88．７．７～88．10．25	良好	ＭＭＴＣ教官 及び制作技術Ｃ／Ｐ
	31	スナリオ （番組制作，ニュース報道，制作技術）	テレビ放送技術（II）	ＮＨＫ 89．１．16～89．４．４		ＭＭＴＣ技術副部長 及び制作技術Ｃ／Ｐ （現在日本で研修中）
	32	ジュジュール・スティアワン （番組制作，ニュース報道，制作技術）	テレビ放送技術（II）	ＮＨＫ 89．１．16～89．４．４		ＭＭＴＣ教官 及び運行技術Ｃ／Ｐ （現在日本で研修中）
	33	ムラトノ	放送局における総務関係業務	ＮＨＫ 89．１．30～89．３．14	良好	ＭＭＴＣ総務課職員
					合計	33　名

注（1）　No.８，９，26，27及び28はＣ／Ｐ枠でなく集団枠としての参加である。

（2）　担当分野は63年度実施コースの担当分野であり，本表において分野が未記入であっても過去において担当の実績があるか，もしくは1989年度以降担当の予定である。

4—4　カリキュラムの整備及び準備状況

(1)　ＤＩコースのカリキュラム整備状況

ＤＩコースの現行カリキュラムは，1986年４月にＤＩコースが実施されて以来，専門家の指導を得て逐次整備，手直しが行われ，現在に至っている。

ＤＩコースのカリキュラムを次に示す。

教科課程　ディプロマＩ　番組編成コース

No	コード	教科内容	単位	学期 I	学期 II	備考
I	MKDU	一般教科				
1.	00 AGM 12	宗教	2	2		1. イスラム教，キリスト教，ヒンズー教，仏教
2.	00 PUG 12	国家の理念	2	2		2. 1945年インドネシア国憲法
3.	00 PMR 12	調査方法入門	2	2		3. 科学的執筆指導
4.	00 BIN 12	インドネシア語	2	2		4. インドネシア文学と言語
5.	00 BNA 12	英語Ｉ	2	2		5. 基礎／一般
6.	00 BNB 12	英語II	2		2	6. 業務用英語
			---12---	---10---	---2--	
II	MKDK	基礎技能教科				
7.	11 PMS 13	番組管理入門	3		3	7. 番組編成と管理
8.	11 FAC 12	番組構成・演出	2	2		8. 報道，教育，教養及び芸能番組
9.	11 PPA 12	番組制作入門	2	2		9. 番組美学と番組制作倫理入門
10.	11 ABD 12	文化観賞	2		2	10. 文化観賞と社会心理
11.	11 KDM 12	コミュニケーションの科学	2		2	11. マスコミュニケーション，ジャーナリズム，ＰＲ，演説，世論調査
			---11---	---4---	---7--	
III	MKK	技術				
12.	11 RAP 12	視聴者調査	2		2	12. データ収集と分析
13.	11 KHS 13	放送の役割	3	3		13. 著作権，特許，番組訴訟手続
14.	11 KTU 12	経営管理	2	2		14. 人事管理，予算，資機材
15.	11 PNA 13	原稿執筆Ｉ	3		3	15. 原稿の書き方
16.	11 PTS 13	番組編成入門	3	3		16.
17.	11 PRP 12	演習Ｉ	2	2		17.
18.	11 PRP 16	演習II	6		6	18.
			---21---	---10--	---11--	
			---44---	---24--	---19--	
19.	00 OR 00	スポーツと健康	N.K.			19. 一般研修
20.	00 SO 00	情報省の組織機構と業務体制				20. 一般研修

教科課程　ディプロマⅠ　番組制作コース

No	コード	教　科　内　容	単位	学期 Ⅰ	学期 Ⅱ	備　考
Ⅰ	GENERAL	一般教科				
1.	00 AGM 12	宗教	2	2		
2.	00 PUG 12	インドネシア国家の理念「パンチャシラ」	2	2		2. パンチャシラ，1945インドネシア憲法，国策指導
3.	00 PMR 12	調査方法入門	2		2	3. 原稿執筆指導
4.	00 BIN 12	インドネシア語	2	2		4. 言語とインドネシア文学
5.	00 BNA 12	英語Ⅰ	2	2		5. 基礎／一般
6.	00 BNB 12	英語Ⅱ	2		2	6. 業務用英語
			---12---	---8---	---4--	
Ⅱ	SKILL BASIC	基礎技能教科				
7.	12 KOM 12	コミュニケーションの科学	2		2	7. マス・コミュニケーション，ジャーナリズム原論，ＰＲ，演説，世論調査
8.	12 PMG 12	制作管理入門	2	2		
9.	12 PPA 14	番組制作入門	4	4		9. ラジオ，テレビ放送番組制作，編集
			----8---	---6---	---2--	
			---20---	---14---	---6--	
10.	12 MPS 12	放送番組と経営管理	2		2	
			---22---	---14---	---8--	
Ⅲ	PROFESSION	専門教科				
11.	12 PNA 12	原稿執筆	2	2		11. スクリプトの書き方，ラジオ，テレビ演出論
12.	12 MPS 12	制作管理	2		2	12. 制作管理，予算策定
13.	12 PAC 14	個別番組制作	4		4	13. 色彩心理学を含む
14.	12 AEP 16	番組美学	6	6		14. 以下を含む －舞踊振付 －美術デザイン －音楽理論 －照明美術 －測色学 －音響芸術
15.	12 PRP 12	Ⅰ学期，演習	2	2		15. 番組編成を含む
16.	12 PRP 16	Ⅱ学期，演習	6		6	
			---22---	---10--	---12--	
			---44---	---24--	---20--	
Ⅳ	OTHERS	単位外教科				
17.	00 OR 00	スポーツと環境の知識	－			一般研修
18.	00 SO 00	インドネシア共和国情報省の組織機構と業務体制	－			一般研修
19.	00 ... 00	その他	－			

教科課程　ディプロマⅠ　報道

No	コード	教科内容	単位	学期 Ⅰ	学期 Ⅱ	備考
Ⅰ	GENERAL	一般教科				
1.	00 AGM 12	宗教	2	2		
2.	00 PUG 12	インドネシア国家の理念「パンチャシラ」	2	2		2. パンチャシラ，1945インドネシア憲法，国策指導
3.	00 PMR 12	調査方法入門	2		2	3. 原稿執筆指導
4.	00 BIN 12	インドネシア語	2	2		4. 言語とインドネシア文学
5.	00 BNA 12	英語Ⅰ	2	2		5. 基礎／一般
6.	00 BNB 12	英語Ⅱ	2		2	6. 業務用英語
			---12	---8	---4--	
Ⅱ	SKILL BASIC	基礎技能教科				
7.	13 FOB 12	ニュースの構成，演出	2		2	7. －情報源の分析 －情報の選択 －ニュースの形式 －ニュース番組 －マガジン・ニュース
8.	13 PMP 12	ニュース報道の経営管理	2	2		
9.	13 APP 14	ニュース番組制作入門	4	4		
			----8	----6	---2--	
10.	13 PPS 12	ニュース番組の企画と放送	2		2	
			---10	----6	---4--	
Ⅲ	PROFESSION	専門教科				
11.	13 JRT 12	ラジオ，テレビ・ジャーナリズム	2	2		
12.	13 PNB 12	ニュース原稿の書き方	2		2	
13.	13 RWC 14	リポートとインタビュー	4		4	
14.	13 TRB 12	ニュース編集技術	2	2		
15.	13 KRT 12	ラジオ，テレビのコメンタリー	2	2		
16.	13 KEJ 12	報道倫理コード	2	2		
17.	13 PRP 12	Ⅰ学期，演習	2	2		
18.	13 PRP 16	Ⅱ学期，演習	2		6	
			---22	---10	--12--	
			---44	---24	--20--	
Ⅳ	OTHERS	単位外教科				
19.	00 OR 00	スポーツと環境の知識	－			一般研修
20.	00 SO 00	インドネシア共和国 情報省の組織機構と業務体制	－			一般研修
21.	00 ... 00	その他	－			

教科課程　ディプロマⅠ　制作・運行技術

No	コード	教　科　内　容	単位	学期 Ⅰ	学期 Ⅱ	備　考
Ⅰ	GENERAL	一般教科				
1.	00 AGM 12	宗教	2	2		
2.	00 PUG 12	インドネシア国家の理念「パンチャシラ」	2	2		2．パンチャシラ，1945インドネシア憲法，国策指導
3.	00 PMR 12	調査方法入門	2		2	3．原稿執筆指導
4.	00 BIN 12	インドネシア語	2	2		4．言語とインドネシア文学
5.	00 BNA 12	英語Ⅰ	2	2		5．基礎／一般
6.	00 BNB 12	英語Ⅱ	2		2	6．業務用英語
			---12---	---8---	---4--	
Ⅱ	SKILL BASIC	基礎技能教科				
7.	14 MAT 12	数学	2	2		
8.	14 ELK 13	電子技術	3		3	8．電気理論，電子回路，ディジタル技術
9.	14 AVA 12	音声，映像技術Ⅰ	2	2		
10.	14 AVB 12	音声，映像技術Ⅱ	2		2	
			---9---	---4---	---5--	
			---21---	---12---	---9--	
Ⅲ	PROFESSION	専門教科				
11.	14 PAU 12	測定技術と測定機器	2		2	11．理論と実習
12.	14 TPA 12	スタジオ機器技術Ⅰ	2	2		
13.	14 TPB 12	スタジオ機器技術Ⅱ	2		2	
14.	14 ATP 13	番組制作意図と技術の立場	3	3		14．ラジオとテレビの番組制作，音響技術，音楽理論
15.	14 TCC 12	照明技術と測光技術	2	2		
16.	14 TAP 14	音声，映像収録機器技術	4		4	
17.	14 PRP 12	Ⅰ学期，演習	2	2		
18.	14 PRP 16	Ⅱ学期，演習	6		6	
			---23---	---9---	---14--	
			---44---	---21---	---23--	
Ⅳ	OTHERS	単位外教科				
19.	00 OR 00	スポーツと環境の知識	–			一般研修
20.	00 SO 00	インドネシア共和国情報省の組織機構と業務体制	–			一般研修
21.	00 ... 00	その他	–			

教科課程　ディプロマⅠ　送信技術

No	コード	教科内容	単位	学期 Ⅰ	学期 Ⅱ	備考
Ⅰ	GENERAL	一般教科				
1.	00 AGM 12	宗教	2	2		
2.	00 PUG 12	インドネシア国家の理念「パンチャシラ」	2	2		2．パンチャシラ，1945インドネシア憲法，国策指導
3.	00 PMR 12	調査方法入門	2		2	3．原稿執筆指導
4.	00 BIN 12	インドネシア語	2	2		4．言語とインドネシア文学
5.	00 BNA 12	英語Ⅰ	2	2		5．基礎／一般
6.	00 BNB 12	英語Ⅱ	2		2	6．業務用英語
			---12	---8	---4--	
Ⅱ	SKILL BASIC	基礎技能教科				
7.	15 MAT 12	数学	2	2		
8.	15 ELK 14	電子技術	4	4		8．電気理論，電子回路，ディジタル技術
9.	15 AVA 12	音声，映像技術Ⅰ	2	2		
10.	15 AVB 12	音声，映像技術Ⅱ	2		2	
			---10	---8	---2--	
			---22	---16	---6--	
Ⅲ	PROFESSION	専門教科				
11.	15 TRF 12	無線工学	2	2		
12.	15 APG 12	アンテナ及び電波伝播	2	2		
13.	15 TTX 12	伝送技術	2	2		13．ラジオ，テレビ送信技術
14.	15 PAU 14	測定技術と測定機器	4		4	
15.	15 TPR 14	送信機技術	4		4	
16.	15 PRP 12	Ⅰ学期，演習	2	2		16．電子工学実習及び測定実習
17.	15 PRP 16	Ⅱ学期，演習	6		6	
			---22	---8	--14--	
			---44	---24	--20--	
Ⅳ	OTHERS	単位外教科				
18.	00 OR 00	スポーツと環境の知識	−			一般研修
19.	00 SO 00	インドネシア共和国情報省の組織機構と業務体制	−			一般研修
20.	00 ... 00	その他	−			

(2) ＤII，ＤIIIコースのカリキュラム準備状況

ＤＩコースに加えて，1989年度からＤIIコースが実施される予定である。これに伴って，ＤIIコース及びＤIIIコースのカリキュラムがインドネシア側の主体的な取り組みによって準備されている（付属資料参照）。ＤII ８コース，ＤIII 11コースいずれのカリキュラムも「一般教科」「基礎技能教科」「技能」の３教科からなり，各教科において，より細分化された専門的な教科内容が設定されている。

このうち，1989年度に実施予定のＤII ３コース（部門別番組制作，番組／ニュース原稿執筆，スタジオ制作技術）のカリキュラムを次に示す。

教科課程　ディプロマII　部門別番組制作コース

No	コード	教科内容	単位	学期 I	学期 II	備考
I	GENERAL	一般教科				
1.	00 KWR 22	市民精神	2	－	2	1. 民族主義
2.	00 MRT 22	調査方法 I	2	2	－	2. データ収集分析・報告調査
3.	00 BIB 22	インドネシア語II	2	2	－	3. 文法と文学・作文
4.	00 BNC 22	英語III	2	2	－	4. 文法・会話
5.	00 BND 22	英語IV	2	－	2	5. 専門的な会話・討議
			---10---	---6---	---4--	
II	BASIC SKILL	基礎技能教科				
6.	12 KMS 22	マスコミュニケーション	2	－	2	6. メディア・ノンメディア　コミュニケーション
7.	12 FAS 22	番組方法論II	2	－	2	7. 番組方法論
8.	12 RTP 22	ラジオ・テレビ教育	2	－	2	8. ラジオ・テレビ教育
9.	12 MJP 22	番組管理	2	2	－	9. ラジオ・テレビ番組制作管理
			----8----	----2---	---6--	
III	SKILL	技能				
10.	12 EAC 23	番組制作の美学と芸術	3	－	3	10. 美術・音声・照明の方法
11.	12 DRT 22	ドラマツルギー	2	2	－	11. ドラマツルギー
12.	12 ANM 22	アニメーション	2	－	2	12. アニメーション
13.	12 PAC 22	番組制作III	2	2	－	13. ラジオ・テレビ番組制作
14.	12 PAD 23	番組制作IV	3	－	3	14. ラジオ・テレビ番組制作
15.	12 PRC 26	番組制作実習III	6	6	－	
16.	12 PRD 24	番組制作実習IV	4	－	4	
			---22---	---10--	---12--	
			---40---	---18--	---22--	

教科課程　ディプロマII　番組／ニュース原稿執筆コース

No	コード	教科内容	単位	学期 I	学期 II	備考
I	GENERAL	一般教科				
1.	00 KWR 22	市民精神	2	−	2	1. 民族主義
2.	00 MRT 22	調査方法 I	2	2	−	2. データ収集・分析・報告・調査
3.	00 BIB 22	インドネシア語 II	2	2	−	3. 文法と文学・作文
4.	00 BNC 22	英語 III	2	2	−	4. 文法・会話
5.	00 BND 22	英語 IV	2	−	2	5. 専門的な会話・討議
			---10----	---6---	---4--	
II	BASIC SKILL	基礎技能教科				
6.	14 KOS 22	社会的コミュニケーション	2	−	2	6. ソーシャルコミュニケーション
7.	14 PBS 22	放送番組の収集技術	2	−	2	7. 放送番組の収集技術
8.	14 FAS 22	番組方法論	2	2	−	8. ラジオ・テレビの番組方法論
9.	14 MPS 22	番組管理	2	−	2	9. 番組管理
			----8----	---2---	---6--	
III	SKILL	技能				
10.	14 EAS 23	番組制作の美学と芸術	3	−	3	10. 美術・音声・照明・編集
11.	14 KST 22	文学	2	−	2	11. 文学
12.	14 PNB 22	スクリプト執筆 II	2	2	−	12. ラジオ・テレビ・スクリプト執筆
13.	14 PNC 23	物語作成 III	3	−	3	13. ラジオ・テレビ物語作成
14.	14 PAC 22	番組制作	2	2	−	14. ラジオ・テレビ番組制作
15.	14 PRC 26	制作実習 I	6	6	−	15. ラジオ・テレビ・スクリプト執筆
16.	14 PRD 24	制作実習 II	4	−	4	16. ラジオ・テレビ・スクリプト執筆 制作実習
			---22---	---10--	---12--	
			---40---	---18--	---22--	

教科課程　ディプロマII　スタジオ制作技術コース

No	コード	教科内容	単位	学期 I	学期 II	備考
I	GENERAL	一般教科				
1.	00 KWR 22	市民精神	2	−	2	1. 民族主義
2.	00 MRT 22	調査方法	2	2	−	2. データ収集・分析・報告・調査
3.	00 BNC 22	英語III	2	2	−	3. 文法・会話
4.	00 BND 22	英語IV	2	−	2	4. 専門会話
			----8	----4	---4--	
II	BASIC SKILL	基礎技能				
5.	16 ELK 23	エレクトロニクスII	3	3	−	5. ディジタル・電気技術・エレクトロニクス
6.	16 MGT 22	技術管理	2	−	2	6. 管理・部品補給・回線計画・機器保守・施設
7.	16 TCS 22	照明・音声技術	2	2	−	7. 照明・音声技術
8.	16 TIR 22	送信技術	2	−	2	8. 送信技術
9.	16 DIF 22	テレビ・フィルム基礎技術	2	−	2	9. テレビ・フィルム基礎技術
			---11	----5	---6--	
III	SKILL	技能				
10.	16 TEA 22	音声技術	2	2	−	10. 音声システム
11.	16 TEV 22	映像技術	2	2	−	11. 映像システム
12.	16 PAB 22	測定技術	2	2	−	12. 音声・映像測定技術
13.	16 TPP 22	編集・同期化技術 I	2	2	−	13. 画面と音声 I
14.	16 TPP 22	編集・同期化技術 II	2	−	2	14. 画面と音声 II
15.	16 TPO 23	機器操作技術	3	−	3	15. ラジオ・テレビ・スタジオ及び局外番組制作機器
16.	16 PRA 26	番組制作実習III	6	6	−	16. ラジオ・テレビ番組制作実習
17.	16 PRA 24	番組制作実習IV	4	−	4	17. ラジオ・テレビ局外番組制作実習
			---23	---14	---9--	
			---42	---23	--19--	
	00 OR 00	スポーツと健康	N.K.			

(3) インドネシア側のディプロマコース設定（案）に対する専門家チームの考え方

放送訓練センターとして実現を目指している本プロジェクトの目標は，インドネシア側がMMTCと称する放送以外の情報手段も網羅的に包摂することを理想とする訓練機関の中に，インドネシア情報省が，この国の教育文化省によってアカデミー（短期大学）として認定される，放送に関する一種の短期大学を設立するのを支援することにある。

この訓練センターは，当初，インドネシアの放送機関へ任用されたばかりの大学，専門学校あるいは高等学校の卒業生を放送現場で有効に機能させ得るように，1年間の促成教育で新人を教育する職業訓練センターとして構想された。ところが，日本との協力が進み，日本の優れた機器類を装備した施設が完成するのをまのあたりにして，インドネシア側はその職業訓練センターを，急遽，短期大学を自称する，より格付けの高い教育機関として発足させることとした。このため当初職業訓練のためのカリキュラムであった「ベーシック」プログラムを，ほぼそのまま「ディプロマ」制プログラムに読み変えて，その「短期大学」を発足させた。今，ディプロマ制の名のもとに実施されているＤＩコースの5つのコースとそのカリキュラムは，当初のベーシックのそれの踏襲されたものである。

インドネシア共和国政府は情報省を起案者として，このアカデミーの完成を「MMTCの拡大」として日本政府に要請してきた。日本政府はその要請に沿うべく種々の対応を行っている。このプロジェクトも1983年10月から1988年10月までの技術協力を終了するに際し，協力を2年間延長して後続のＤII，ＤIIIコースの準備への支援も協力の対象としている。「MMTCの拡大」に関する追加無償資金協力と技術協力延長の要請書は既に1987年に日本国政府にあてて提出されており，ＤII，ＤIIIコースで実施を目指すとされている各コースもその要請書に記載されている。

ＤII，ＤIIIコースの実現については，インドネシア側に既に基本的な構想があり，計画もあるが，専門家チームは放送事業実施の経験から，これらのコースを検討し，コース設定についてのアドバイスを準備中である。

専門家の意見の重点は，次の2点である。

① ＤＩ，ＤII，ＤIIIの各コースを通して，段階を追うごとに期待される育成の目標水準が高く設定されすぎていること。ＤＩ，ＤII，ＤIIIコースをそれぞれ現場のデスク，課長，部長（経営職）の育成を目標としているが，現実にはそれぞれにかなりの現場経験を前提としているので，短期大学の学年ごとの目標にはなじまない。ただ，習得する技能や知識の水準としてならば，本来生徒の水準を前提に教育していくことでもあり，さほど無理な過程とも思われない。教授過程としての程度の上昇そのものにはとくに反対しなければならない要素はないと考えている。従って，要請書に記載された教育のレベルと現場への寄与，貢献との関係の部分は，きわめて抽象的にインドネ

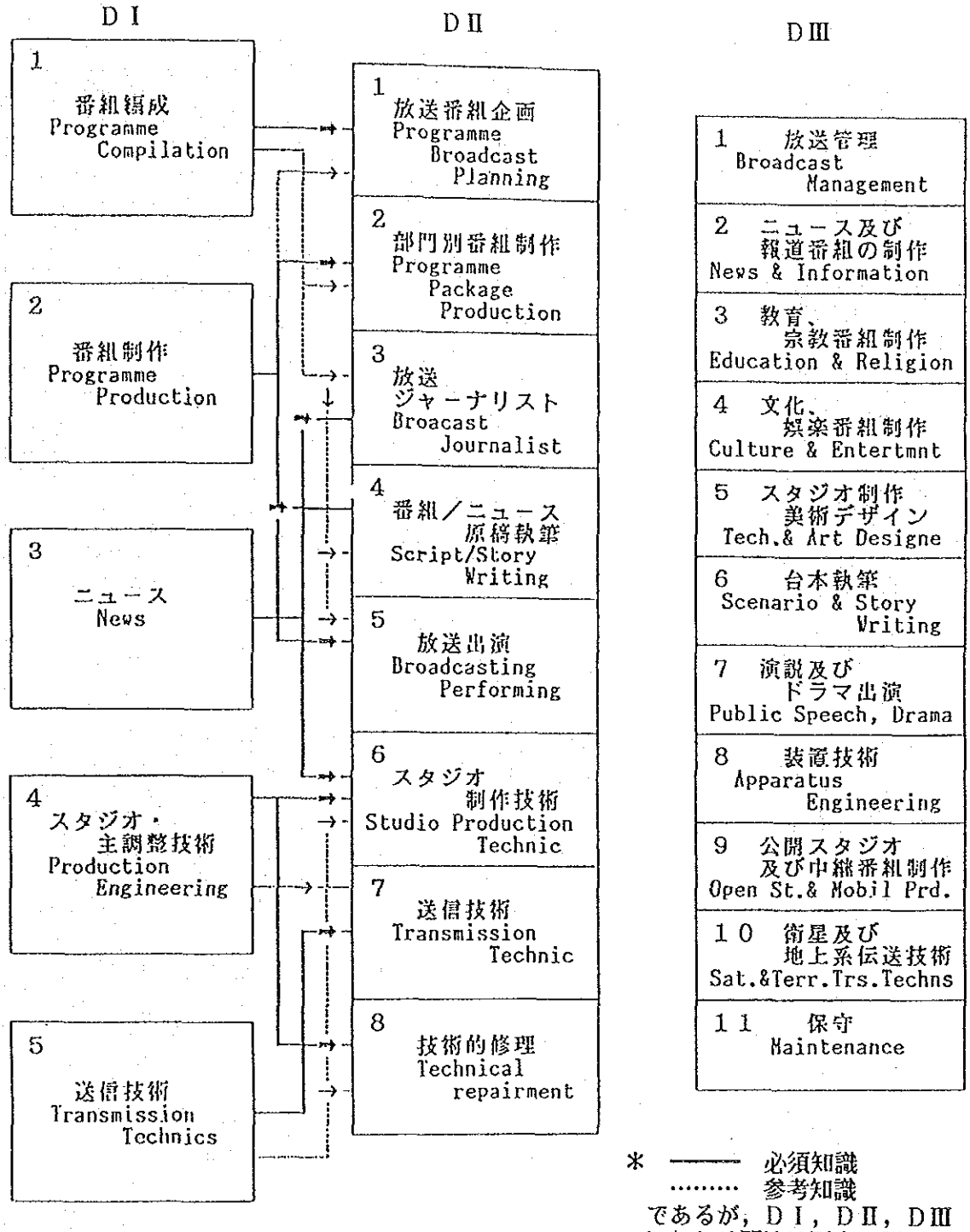
シア側が表明する理想，希望であって，現実の教授過程を拘束し得ないものと解釈すべきと考えている。

② 各コースの配列や設定には基本思想として未熟なものがある。とりわけインドネシアの特殊な事情を咀嚼する部分に工夫が乏しいようである。また，放送技術に関しては特に施設，機器類の保守についての考え方が幼稚で，自立後のMMTC，またはインドネシアの放送技術の将来の発展への糸口が指摘されていないようである。

各コース及び各教科の教授内容や教科の名称については，次のとおり勧告したいとしている。

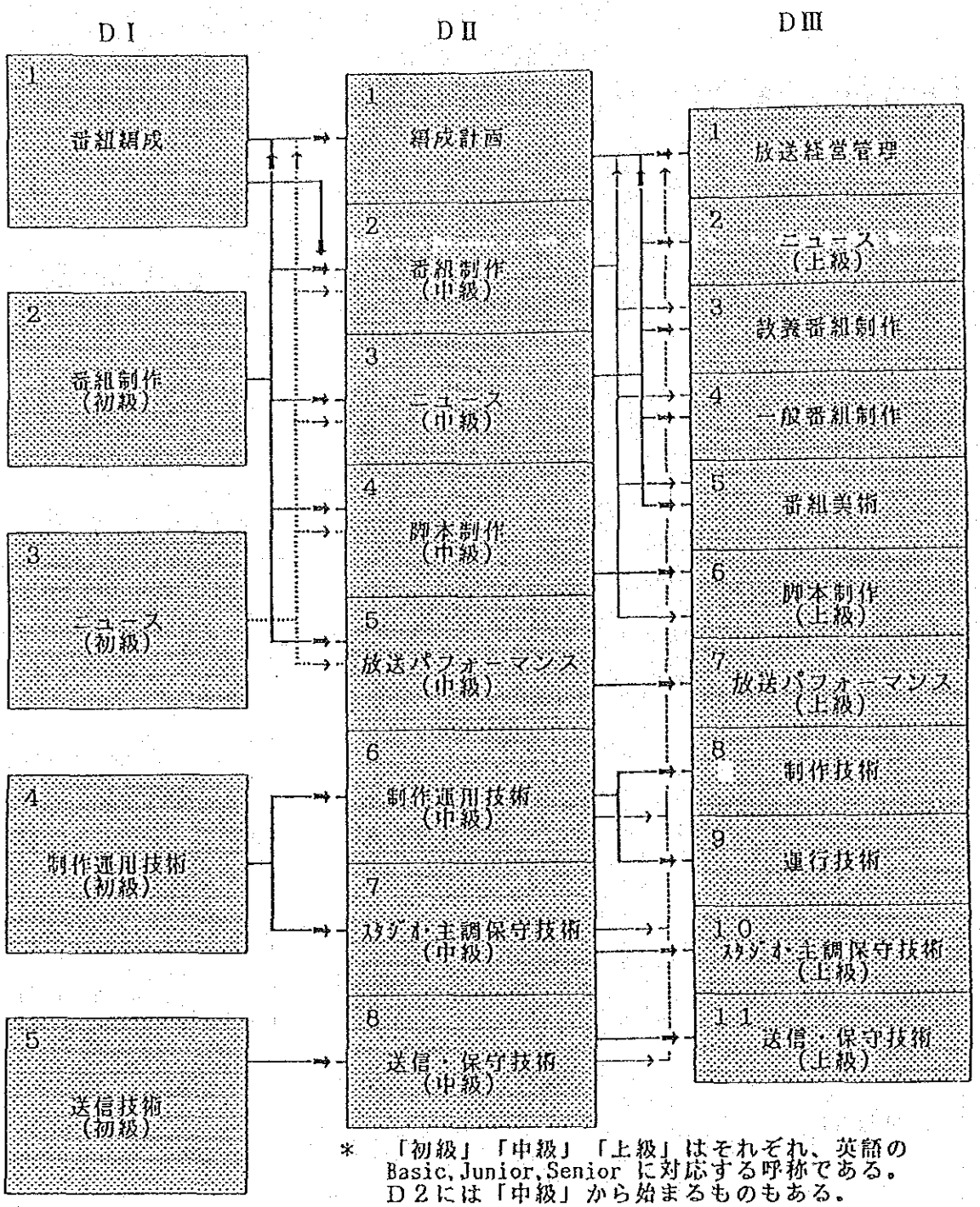
ＤＩ，ＤⅡ及びＤⅢコースの研修過程

（インドネシア側の拡大要請案のコースの名称と研修過程）



＊ ——— 必須知識
…… 参考知識
であるが，ＤＩ，ＤⅡ，ＤⅢにわたる関連は別表に示す。

ＤⅠ，ＤⅡ及びＤⅢコースの研修過程（専門家案）



＊　「初級」「中級」「上級」はそれぞれ、英語の Basic, Junior, Senior に対応する呼称である。
Ｄ２には「中級」から始まるものもある。

	ＤⅠ	ＤⅡ	ＤⅢ
コース定員	１２０	１４０	６０
クラス定員	２４	１８	６
教室	５	８	１１

ディプロマコースの名称の対比

インドネシア側の案

DI

1、番組編成
Programme Compilation

2、番組制作
Programme Production

3、ニュース
News Reporting

4、スタジオ・主調整技術
Studio & Master Control Engineering

5、送信技術
Transmission Technics

DII

1、放送番組企画
Programme Broadcast Planners

2、部門別番組プロデューサー
Programme Package Producers

3、放送ジャーナリスト
Broadcast Journalists

4、番組／ニュース原稿執筆者
Script/Story Writers

5、放送出演者
Broadcast Performers

6、スタジオ制作技術者
Studio Production Technicians

7、送信技術者
Transmission Technicians

8、技術的修理要員
Technical Repairmen

専門家の案

DI

1、番組編成
Programme Arrangement

2、番組制作（初級）
Programme Production (Basic class)

3、ニュース（初級）
News & Social Affairs (Basic class)

4、制作運用技術（初級）
Production & Operation Technique (Basic class)

5、送信技術（初級）
Transmission Technique (Basic class)

DII

1、編成計画
Broadcast Programme Planning

2、番組制作（中級）
Programme Production (Junior class)

3、ニュース（中級）
News & Social Affairs (Junior class)

4、脚本制作（中級）
Scenario & Script Writing (Junior class)

5、放送パフォーマンス（中級）
Broadcast Performance (Junior class)

6、制作運用技術（中級）
Production & Operation Technique (Junior class)

7、スタジオ・主調保守技術（中級）
Studio & Master-control Maintenance Technique (Junior class)

8、送信・保守技術（中級）
Transmission & Maintenance Technique (Junior class)

DⅢ

1、放送管理者
Broadcast Managers

2、ニュース、報道番組制作プロデューサー
Programme News
& Information Producers

3、教育、宗教番組制作プロデューサー
Programme Education
& Religion Producers

4、文化、娯楽番組制作プロデューサー
Programme Cultural
& Entertainment Producers

5、スタジオ制作美術デザイナー
Technical & Artistic
Production Designers

6、台本執筆者
Scenario & Storyboard Writers

7、演説及びドラマ出演者
Public Speech & Drama Casters

8、装置技術者
Apparatus Engineers

9、公開スタジオ、中継番組制作技術者
Open Studio
& Mobile Production Engineers

10、衛星及び地上系伝送技術者
Satellite & Terresterial
Transmission Engineers

11、保守要員
Maintenance

DⅢ

1、放送経営管理
Broadcast Management & Control

2、ニュース（上級）
News & Social Affairs (Senior class)

3、教養番組制作
Cultural Programme Production

4、一般番組制作
General Programme Production

5、番組美術
Aesthetical Design of Programmes

6、脚本制作（上級）
Scenario & Script Writing
(Senior class)

7、放送パフォーマンス（上級）
Broadcast Performance (Senior class)

8、制作技術
Studio Production & Engineering

9、運行技術
Post Production & Master-control
Engineering

10、スタジオ・主調保守技術（上級）
Studio & Master-control
Maintenance Engineering
(Senior class)

11、送信・保守技術（上級）
Transmission & Maintenance
Engineering
(Senior class)

ＤＩ，ＤⅡからの展開として，ＤⅡ及びＤⅢに求められる技能と知識

～インドネシア側拡大要請案～

◎：必須技能、知識

＊：参考技能、知識

	ＤＩ					ＤⅡ							
	1 番組編成	2 番組制作	3 ニュース	4 制作運用技術	5 送信技術	1 放送番組企画	2 部門別番組制作	3 放送ジャーナリスト	4 番組・ニュース原稿執筆	5 放送出演	6 スタジオ制作技術	7 送信技術	8 技術的修理
ＤⅡ													
1、放送番組企画	◎	＊											
2、部門別番組制作	＊	◎											
3、放送ジャーナリスト	＊	＊	◎										
4、番組、ニュース原稿執筆	＊	◎	＊										
5、放送出演	＊	◎	＊										
6、スタジオ制作技術		＊	＊	◎	＊								
7、送信技術				＊	◎								
8、技術的修理				◎	＊								
ＤⅢ													
1、放送管理	◎	＊	＊	＊		◎	＊	＊			＊	＊	
2、ニュース、報道番組制作	＊	＊	◎	＊		＊	＊	◎	＊	＊	＊		
3、教育、宗教番組制作	＊	◎		＊		＊	◎		＊	＊	＊		
4、文化、娯楽番組制作	＊	◎		＊		＊	◎		＊	＊	＊		
5、スタジオ制作美術		◎	＊	＊			◎	＊	＊	＊	＊		
6、台本執筆	＊	◎	＊				◎	＊	◎				
7、演説、ドラマ出演	＊	◎	＊					＊	＊	◎			
8、装置技術				◎	＊						◎	＊	＊
9、公開スタジオ				◎	＊						◎	＊	＊
10、衛星、地上系中継制作技術伝送技術				＊	◎						＊	◎	＊
11、保守				◎	＊						◎	＊	◎

ＤⅡのカリキュラムの訓練計画の要素

（インドネシア側の拡大要請案に示されたカリキュラムの要素）

1．放送番組企画担当者　Programme Broadcast Planners　（編成計画）

あらゆる番組素材を編成計画通りに組み立てるために，企画体制を整備し，資料と情報を分析し，番組の目的別分類を行い，番組形式や制作体制の様々な在り方及びそれらに関連する知識を要求される集団。

	必須知識	参考知識
ＤＩからの展開として要求される技能と知識	ａ１：番組編成	ａ２：番組制作

2．部門別番組制作プロデューサー　Programme Package Producers　（番組制作～中級～）

番組制作活動の総体に関与しつつ，個々の番組の制作に関しその方法，技巧，芸術性についての複雑な知識を要求される集団。

ＤＩからの展開として要求される技能と知識	ａ２：番組制作	ａ１：番組編成

3．放送ジャーナリスト　Broadcast Journalists　（ニュース～中級～）

報道素材についての原稿の執筆，リポート，編集，解説，分析の方法と報道素材としての政治，経済，社会，科学，スポーツ，文化，芸術及び軍事などのすべての専門分野とに関する複雑な知識を要求される集団。

ＤＩからの展開として要求される技能と知識	ａ３：ニュース	ａ１：番組編成 ａ２：番組制作

4．番組／ニュース原稿執筆者　Script/Story Writers　（脚本制作～中級～）

放送番組制作のための，技法の研究，着想の開発，執筆技術，台本制作に関する知識を要求される集団。

ＤＩからの展開として要求される技能と知識	ａ２：番組制作	ａ１：番組編成 ａ３：ニュース

5．放送出演者　Broadcasting Performers　（放送パフォーマンス～中級～）

番組実施のためにヴォイス・リポート，ナレーション，演技，効果的弁舌，パントマイム，物真似及びその他の出演技術についての知識を要求される集団。

ＤＩからの展開として要求される技能と知識	ａ２：番組制作	ａ１：番組編成 ａ３：ニュース

6．スタジオ制作技術者　Studio Production Technicians　　（制作運用技術～中級～）

番組素材に適合し，科学技術の組織的構造を理解してスタジオ制作の技術についての複雑な知識を要求される集団。

ＤＩからの展開として要求される技能と知識	ａ４：スタジオ・主調整技術	ａ２：番組制作 ａ３：ニュース ａ５：送信操作（＊＊註）

7．送信技術者　Transmission Technicians　　（＊註）

送信機，アンテナ技術，電波伝播特性及び音声，映像送信品質についての複雑な知識を要求される集団。

ＤＩからの展開として要求される技能と知識	ａ５：送信操作（＊＊註）	ａ４：スタジオ・主調整技術

8．技術的修理要員　Technical Repairmen　　（＊註）

較正と測定の構造についての知識及び故障あるいは誤作動をする機器類の作動，改善，及び修理の能力についての知識を要求される集団。

ＤＩからの展開として要求される技能と知識	ａ４：スタジオ・主調整技術	ａ５：送信操作（＊＊註）

（＊註）

<u>専門家側の勧告</u>　インドネシアの原案では上記のごとく「技術的修理要員」が単独のコースとされているが，これは，この国の今の技術観を反映しているにすぎない。施設や機器類の「保守」についての観念が非常に希薄であるうえに「修理，修繕」ととり違えているところがある。すべてに施設，機器類について「保守」思想と知識，技能を徹底することが「技術移転」の要である。この観点からプロジェクト・チームはコースの実施内容の変更を勧告する予定である。

「勧告案」は，

7．「スタジオ・主調保守技術」

8．「送信・保守技術」

とすることである。「保守（修理，修繕）」を分離させないためである。

なお，ＤⅢにおいても

10．「スタジオ・主調保守技術（上級）」

11．「送信・保守技術（上級）」

とする勧告を予定している。

（＊＊註）

ＤＩでの呼称は「送信技術」であるが，ＤⅡにもこのコースがあり，これとの混同を避けるため，ここではあえて「送信操作」と呼ぶことにする。ＤⅢでも同様に用いる。

ＤⅢのカリキュラムの訓練計画の要素

（インドネシア側の拡大要請案に示されたカリキュラムの要素）

1．放送管理者　Broadcast Manager　（放送経営管理）

放送の経営的，技術的観点から，企画，組織，実施，監視及びすべての放送番組素材の制御を行い，経営企画の戦略のために放送の反響を分析，解釈する知識を要求される集団である。

	必須知識	参考知識
ＤⅠ，ＤⅡからの展開として要求される技能と知識	ａ１：番組編成 ｂ１：放送番組企画	ａ２：番組制作 ａ３：ニュース ａ４：スタジオ・主調整技術 ｂ２：部門別番組制作 ｂ３：放送ジャーナリスト ｂ６：スタジオ制作技術 ｂ７：送信技術

2．ニュース及び報道番組の制作プロデューサー　Program News and Information Producers　（ニュース～上級～）

ジャーナリズムの専門分野での職業的資格と秩序に従った，ニュース及び報道番組の制作に関し，高度な方法や技能についての知識を要求される集団。

ＤⅠ，ＤⅡからの展開として要求される技能と知識	ａ３：ニュース ｂ３：放送ジャーナリスト	ａ１：番組編成 ａ２：番組制作 ａ４：スタジオ・主調整技術 ｂ１：放送番組企画 ｂ２：部門別番組制作 ｂ４：番組／ニュース原稿執筆 ｂ５：放送出演 ｂ６：スタジオ制作技術

3．教育，宗教番組制作プロデューサー　Program Education and Religion Producers　（教養番組制作）

放送受信者の年齢，放送対象者層及び社会的通念を基礎にして，科学，科学技術，及び哲学の，専門分野での職業的資格と秩序に従った，教育，宗教番組の制作に関し，高度な方法や技能についての知識を要求される集団。

ＤⅠ，ＤⅡからの展開として要求される技能と知識	ａ２：番組制作 ｂ２：部門別番組制作	ａ１：番組編成 ａ４：スタジオ・主調整技術 ｂ１：放送番組企画 ｂ４：番組／ニュース原稿執筆 ｂ５：放送出演 ｂ６：スタジオ制作技術

4．文化，娯楽番組制作プロデューサー　Program Cultural and Entertainment Producers

（一般番組制作）

ショウ，芸術（音楽芸術，伝統芸術，古典芸術などの視覚的実演）及びパフォーマンス（舞台，ドラマ，喜劇，悲劇など）の専門分野での職業的資格と秩序に従った，文化，娯楽番組の制作に関し，高度な方法や技能についての知識を要求される集団。

ＤＩ，ＤＩＩからの展開として要求される技能と知識	ａ２：番組制作 ｂ２：部門別番組制作	ａ１：番組編成 ａ４：スタジオ・主調整技術 ｂ１：放送番組企画 ｂ４：番組／ニュース原稿執筆 ｂ５：放送出演 ｂ６：スタジオ制作技術

5．スタジオ制作美術デザイナー　Technical and Artisitic Production Designer　（番組美術）

番組制作のための技巧，技術及び芸術的側面の特徴についての知識と審美的デザインを支援するために必要な道具類についての理解を要求される集団である。

ＤＩ，ＤＩＩからの展開として要求される技能と知識	ａ２：番組制作 ｂ２：部門別番組制作	ａ３：ニュース ａ４：スタジオ・主調整技術 ｂ３：放送ジャーナリスト ｂ４：番組／ニュース原稿執筆 ｂ５：放送出演 ｂ６：スタジオ制作技術

6．台本執筆者　Scenario and Storyboard Writers　（脚本制作～上級～）

ある部門の番組制作のための，演劇論やラジオ，テレビ・ドラマを執筆，文学作品，喜劇作品の脚色，演出台本，撮影台本などに関する知識を要求される集団である。

ＤＩ，ＤＩＩからの展開として要求される技能と知識	ａ２：番組制作 ｂ２：部門別番組制作 ｂ４：番組／ニュース原稿執筆	ａ１：番組編成 ａ３：ニュース ｂ３：放送ジャーナリスト

7．演説者及びドラマ出演者　Public Speech and Drama Casters　（放送パフォーマンス～上級～）

番組制作のために雄弁術，弁論術，トーク・ショウ，演技，劇化，実演その他の出演技術についての知識を要求される集団である。

ＤＩ，ＤＩＩからの展開として要求される技能と知識	ａ２：番組制作 ｂ５：放送出演	ａ１：番組編成 ａ３：ニュース ｂ３：放送ジャーナリスト ｂ４：番組／ニュース原稿執筆

8．装置技術者　Apparatus Engineer　　（スタジオ・運行技術）（＊註）

番組制作に関し，高度なスタジオ及び主調整技術についての知識と斬新な工夫，革新のために番組制作素材を企画，設計及び作成する理解力を求められる集団である。

ＤＩ，ＤⅡからの展開として要求される技能と知識	ａ４：スタジオ・主調整技術 ｂ６：スタジオ制作技術	ａ５：送信操作 ｂ７：送信技術 ｂ８：技術的修理

（＊註）：原案では「装置」のみを対象としているが，実質的には「スタジオ制作技術」であり，そのためのコースが用意されていないのでこのコースをそれに当てることを専門家として勧告する予定。

9．公開スタジオ及び中継番組制作技術者　Open Studio and Mobile Production Engineers　　（中継技術）

番組制作に関し，高度な公開スタジオ及び中継番組制作技術の知識と斬新な工夫，革新のために番組制作素材を企画，設計及び作成する理解力を要求される集団である。

ＤＩ，ＤⅡからの展開として要求される技能と知識	ａ４：スタジオ・主調整技術 ｂ６：スタジオ制作技術	ａ５：送信操作 ｂ７：送信技術 ｂ８：技術的修理

10．衛星及び地上系伝送技術者　Satellite and Terresterial Transmission Engineering　（＊註）

衛星及びその他の宇宙空間区間，地上区間の通信と放送に関する科学技術，伝播特性，地上受信可能区域，気象的及び地理学的影響，可搬型中継局及び固定局，及びその他の衛星通信と衛星放送体系についての知識を要求される集団である。

ＤＩ，ＤⅡからの展開として要求される技能と知識	ａ５：送信操作 ｂ７：送信技術	ａ４：スタジオ・主調整技術 ｂ６：スタジオ制作技術 ｂ８：技術的修理

11．保守要員　Maintenance　　（＊註）

放送事業の，番組制作や技術的諸活動の連続性を保証するために，電子的手段による通信や放送の高度な科学技術を較正し，試験し，測定し，修理し，改良する知識と科学技術製品の陳腐化の段階や予測，斬新な科学技術，新しい発明や改良を理解することを求められる集団である。

ＤＩ，ＤⅡからの展開として要求される技能と知識	ａ４：スタジオ・主調整技術 ｂ６：スタジオ制作技術 ｂ８：技術的修理	ａ５：送信操作 ｂ７：送信技術

（＊註）専門家側からの勧告　10．の「衛星」利用についてはＭＭＴＣ側の焦りが感じられる。しかし，これは9．にまとめて「中継技術」として良いであろう。また，「保守」だけが分離されているのは好ましいことではない。ＤⅡのカリキュラムでも指摘した通り，「スタジオ・主調整室」系と「送信」系の技術者がそれぞれに「上級」として「保守」を錬磨することを勧告する予定。

(4) インドネシア側のカリキュラム案に対する専門家チームの勧告案

インドネシア側のＤＩ，ＤII及びＤIII各コースのカリキュラム案に対して，専門家チームの考え方に基づいた各コースのカリキュラム案が作成されている。

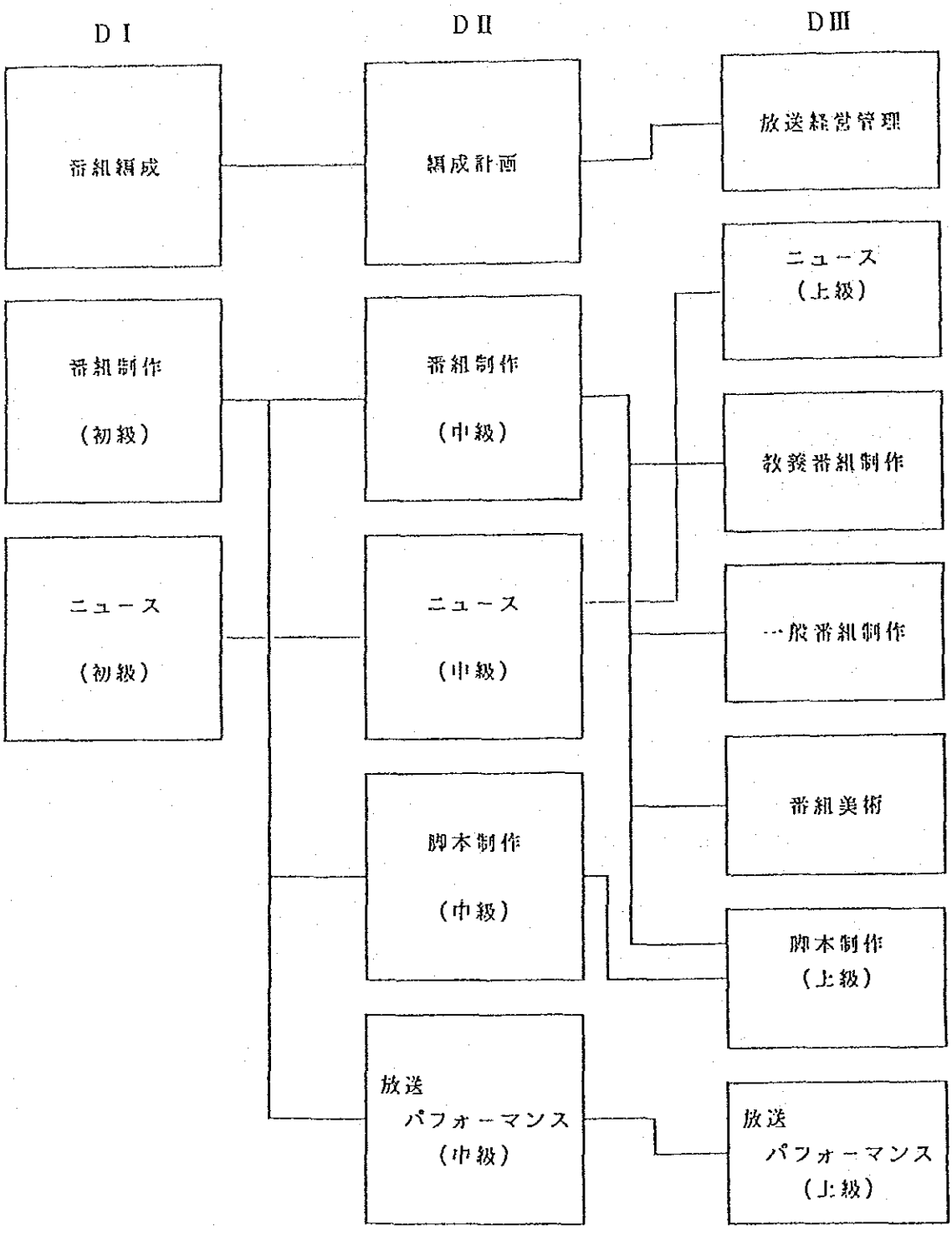
これによると，「放送」及び「技術」の両分野について，その特性を前提にしたカリキュラムを示している。即ち，「放送」分野の「編成・放送管理」「番組制作」及び「報道」は，いずれもＤＩ，ＤII，ＤIIIの全期間を通じて不可分の関係にあり，従ってカリキュラムも有機的な連携に立ったものでなければならないとしている。

また，「技術」分野全般については，分野別の知的体系が確立されているので，保守技術の育成等，必要項目ごとにカリキュラムの形で段階別に教科内容を配列している。

専門家チームは，これら「放送」「技術」各コースのカリキュラム案を合同委員会など適切な機会にMMTC及びインドネシア情報省に提示したいとしているが，調査団としては，専門家チームとインドネシア側とのカリキュラムに関する調整を可能な限り速やかに実現することを希望した。

専門家チーム作成による「放送」系及び「技術」系ディプロマコースのカリキュラム案は，次のとおりである（「技術」系については抜粋）。

「放送」系、ディプロマ・コース制修過程



「編成，放送管理」系統コースの教科内容

訓　練　コ　ー　ス	教　　科　　内　　容
DⅠ　番組編成 DⅡ　編成計画 DⅢ　放送経営管理	（1）政策策定 ＊　放送実施基本方針の策定 ＊　番組編集基本方針の策定 ＊　番組編成基本計画の策定 ＊　年間，月間重点事項の策定 （2）編成業務 ＊　番組提案の募集，検討，採択 ＊　年間，月間，週間計画の策定 ＊　番組素材管理 ＊　番組の試作と開発 ＊　年間番組編成表の作成 ＊　番組編成比率の検討 ＊　番組運行要領，細則の策定 ＊　放送実施要員の確認 ＊　放送関連施設，機器の確認 ＊　送信体制の確認 ＊　スタジオ・機器，リソースの割当 ＊　放送資料，音楽資料の収集，整理，管理 ＊　番組の調達 ＊　緊急対応措置の策定 （3）計画業務 ＊　長期計画の策定 ＊　要員計画の策定 ＊　予算の策定と執行 ＊　放送施設，機器管理計画と基準の策定 （4）調査，広報業務 ＊　番組広報計画の策定 ＊　投書，新聞反響の分析と対応 ＊　受信者，世論の動向の調査，分析 ＊　受信率調査の実施 ＊　番組のモニターと考査 ＊　番組の提供，交換，販売，国際交流 （5）経営企画 ＊　業務監査の実施 ＊　番組委員会，審議会の開催 ＊　著作権，法規関連業務の実施 ＊　内外放送事情の把握及び諸機関との交流 ＊　新技術と放送の将来像の検討 ＊　放送制度，法制の研究 ＊　財源措置～受信料，政府予算等～ ＊　予算の策定と施行

「番組制作」系統コースの教科内容

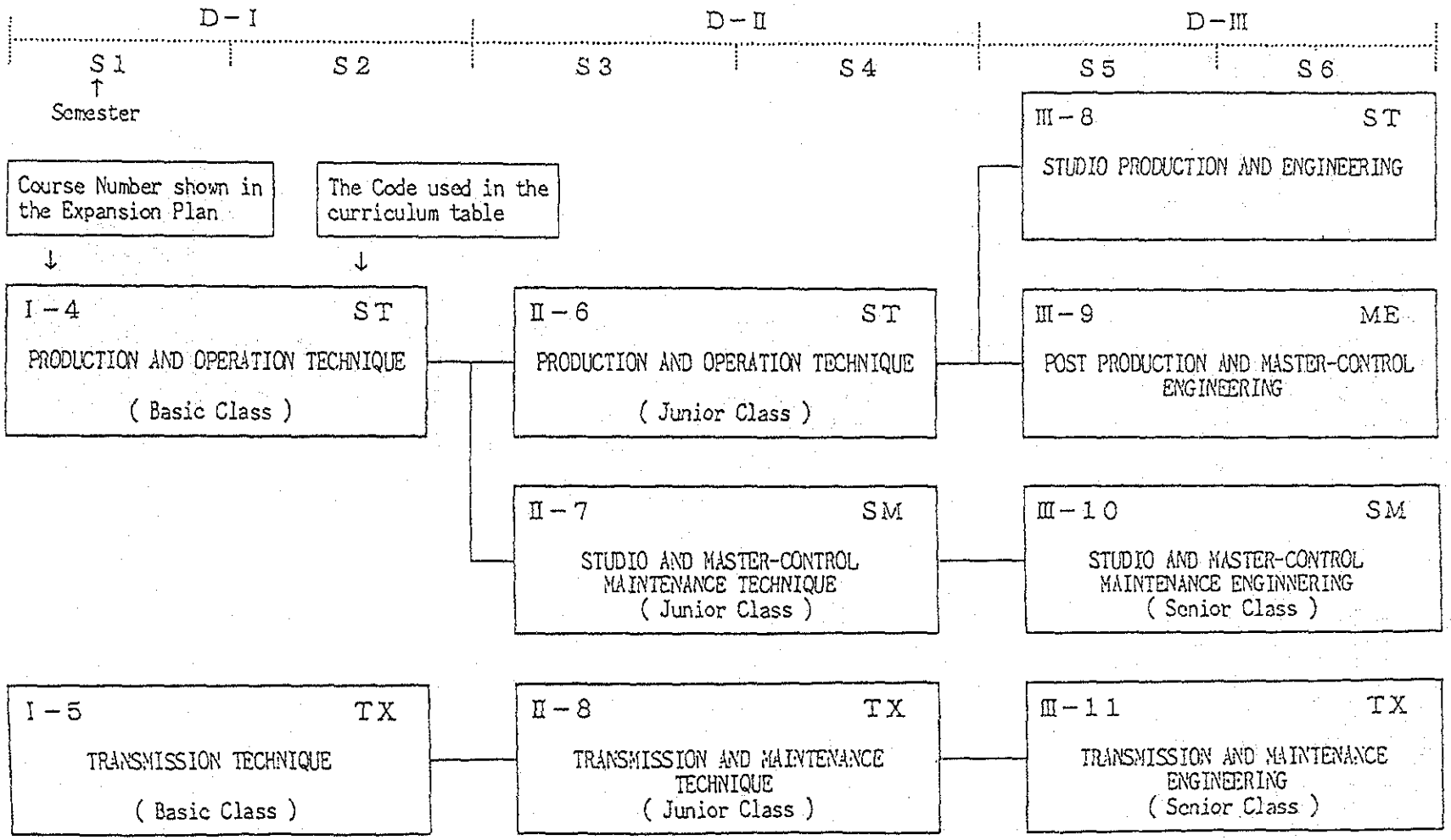
訓練コース	教科内容
ＤⅠ　番組制作（初級）	（1）番組企画
ニュース（初級）	＊　構想と構成
ＤⅡ　番組制作（中級）	＊　番組提案と予算
ニュース（中級）	＊　番組提案会議
脚本制作（中級）	（2）番組制作
放送パフォーマンス（中級）	＊　制作スケジュール
ＤⅢ　教養番組制作	＊　出演交渉
一般番組制作	＊　構成案
番組美術	＊　ロケ取材～フィルム・ビデオ・スチール～
脚本制作（上級）	＊　取材要員との打ち合わせ
ニュース（上級）	＊　機器の確認
放送パフォーマンス（上級）	＊　プロデューサーのリーダーシップ
	＊　音声素材の確認～インタビューと効果音～
	＊　試写
	＊　番組編集～フィルム，スチール，ビデオ構成～
	＊　映像，音声補助材料～オペーク，パターンなど～
	＊　著作権
	＊　映像，音響の設計
	＊　美術の設計
	＊　台本作成
	＊　制作スタッフ
	＊　ＰＤとＦＤ，ＳＤの役割
	＊　収録作業
	＊　放送と事後処理
	＊　中継番組
	（3）資料収集
	＊　取材網
	＊　番組委員会
	（4）部門別番組の企画，演出，制作
	＊　教育番組
	＊　教養番組
	＊　芸能番組
	＊　報道番組
	＊　スポーツ番組
	（5）パフォーマンス
	＊　発声
	＊　演技
	＊　弁論
	＊　衣装
	＊　化粧
	＊　小道具
	＊　大道具

「報道」系統コースの教科内容

訓練コース	教科内容
DⅠ　ニュース（初級） DⅡ　ニュース（中級） 　　脚本制作（中級） DⅢ　ニュース（上級） 　　脚本制作（上級）	（1）取材 ＊　取材記者の資質，能力，倫理（取材源の保護秘匿） ＊　取材源，取材網～記者の配置～ 　a．部門別配置～政治，経済，産業，社会，文化，科学，スポーツ，芸能など～ 　b．地域的配置～首都，地方都市，産業拠点，文化拠点，外国拠点など～ 　c．通信社（自国，外国），外国放送機関との提携 　d．機能別配置～記者会，記者クラブ，通報員，通信員～ （2）出稿，送稿 ＊　伝達手段の効果的選択と運用 　～電話，テレックス，ファックス，ＥＮＧ，現場中継，衛星中継，航空機輸送，オートバイ輸送，列車輸送，写真電送など～ （3）原稿 ＊　正確な記述，明晰な表現，公正中立の遵守 （4）整理，編集 ＊　内容の確認，倫理の遵守，情報価値の判断など ＊　企画の策定 ＊　原稿の校正 （5）解説 ＊　解説番組の編成 （6）放送の実施 ＊　編成的配慮～ニュース時間帯の設定，全国放送と地域放送の組み合わせなど～ ＊　緊急，警報放送～自然災害予報，災害状況の速報，社会的異変，政変，革命，クー・デタ，戦争など～ ＊　放送送出要員（演出プロデューサーと技術者）の確保と訓練 ＊　最新放送技術の応用，適用の努力 （7）報道資料の整備 ＊　人物資料の整備 ＊　事件資料の整備 ＊　映像資料の整備（写真，フィルム，ビデオ資料） ＊　音響資料の整備（音楽，対談記録など） （8）要員の組織内訓練 ＊　報道精神の再確認 ＊　社会的責任の再確認 ＊　記者倫理の再確認

「技術」系ディプロマコース研修過程

DIPLOMA SYSTEM FOR TECHNIQUE COURSE



FUNDAMENTAL CONCEPTION OF CURRICULUM FOR BROADCASTING TECHNIQUES

Diploma			Semester	Broadcasting Engineering Theory	Practical Broadcasting Techniques (facilities & operations)
		D I	S 1	Review of senior high school course.	Introduction to broadcasting techniques.
			S 2	Introduction to broadcasting engineering.	Explanation about fundamental knowledge of job site, outline of facilities and practical use of it.
	D II		S 3	Study systematically about the whole broadcasting engineering theory.	
			S 4		Study about equipment handling with technical theory.
D III			S 5	Study more deeply about important point in the broadcasting engineering	
			S 6		Study systematically about the whole broadcasting facilities and how it should be

CONSTITUTION OF CURRICULUM FOR TECHNIQUE COURSE

Foundation :

The general curriculum to support to understanding of broadcasting engineering. For the purpose of this, the essential laboratory works (called "Fundamental Experiment") should be all included in this curriculum.

Broadcasting Engineering :

Study about working principle of equipment for broadcasting and its background. For the purpose of this, the necessary experiment (called "Engineering Experiment") should be all included in this curriculum. As a general rule, actual broadcasting facilities are not used, but experimental sets are used for engineering experiment.

Broadcasting equipment :

Study about the handling and operation of equipment with learned broadcasting engineering knowledge, and improve the actual using abilities.

Practice and Exercise / Maintenance practice :

Production,Operation, Practice and Exercise systematically with various kind of facilities as the almost real working.

Other engineering concerned :

Complement with outskirts of broadcasting engineering.

Research and Guidance :

Complete the DIII course.

- Production and Operation Technique (Basic) (ST) D I
- Production and Operation Technique (Junior) (ST) D II
- Studio production and Engineering (ST) D III

Curriculum	D I				D II				D III			
	S	1	S	2	S	3	S	4	S	5	S	6
(Foundation)												
Mathematics	I	2	I	2	II	2	II	2				
Electrical Theory	I	1										
Measuring Method				2								
Electrical Engineering								2				
Electronics	I	1			II	2	III	2				
Degital Technics	I	1			II	2						
Network Theory												
Signal Theory												
Optics						1						
Acoustics								1				
(Broadcasting Engineering)												
Audio Engineering			I	1	II	2						
Video Engineering	I	2	I	1	II	3			III	2		
Transmission Engineering												
(Broadcasting Equipment)												
Audio Equipment	I	3					II	2				
Video Equipment	I	3	I	8			II	4				
Out-Side Broadcasting EQPMT.										4		2
Master-Control and Common Facilities					I	2						
(Practic and Exercise)												
Production Practice	I	2	I	2	II	2	II	2	III	4	III	4
Master-Control Practice	I	1	I	2	II	2	II	2				
Production Exercise										2		
Master-Control Exercise												
Outline of Production					I	2	I	2	II	2	II	2
Maintenance Practice												
(Other Engineering)												
Control Engineering							II	1	III	2		
Metal Engineering												
Mechanical Engineering												
Architectural Engineering												
(Research & Guidance)												
Seminar									I A	2	II A	4
Subject Study												4
Guidance Practice												2
TOTAL SKS	16		18		20		20		18		18	

Necessary practices should be all included in above curriculum.

· Post Production and Master-Control Engineering (ME) D III

Curriculum	D I		D II		D III	
	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6
(Foundation)						
Mathematics	I 2	I 2	II 2	II 2		
Electrical Theory	I 1					
Measuring Method		2				
Electrical Engineering				2		
Electronics	I 1		II 2	III 2		
Degital Techniques	I 1		II 2			
Network Theory						
Signal Theory						
Optics			1			
Acoustics				1		
(Broadcasting Engineering)						
Audio Engineering		I 1	II 2			
Video Engineering	I 2	I 1	II 3		III 2	
Transmission Engineering						
(Broadcasting Equipment)						
Audio Equipment	I 3			II 2		
Video Equipment	I 3	I 8		II 4		
Post Production Equipment					2	2
Master-Control and Common Facilities			I 2		II 2	
(Practic and Exercise)						
Production Practice	I 2	I 2	II 2	II 2		
Master-Control Practice	I 1	I 2	II 2	II 2	III 4	III 4
Production Exercise						
Master-Control Exercise					2	
Outline of Production			I 2	I 2	II 2	II 2
Maintenance Practice						
(Other Engineering)						
Control Engineering				II 1	III 2	
Metal Engineering						
Mechanical Engineering						
Architectural Engineering						
(Research & Guidance)						
Seminar					I A 2	II A 4
Subject Study						4
Guidance Practice						2
TOTAL SKS	16	18	20	20	18	18

Necessary practices should be all included in above curriculum.

· Studio and Master-Control Maintenance Technique (Junior) (SM) D II
· Studio and Master-Control Maintenance Engineering (Senior) (SM) D III

Curriculum	D I				D II				D III			
	S	1	S	2	S	3	S	4	S	5	S	6
(Foundation)												
Mathematics	I	2	I	2	II	2	II	2	III	2	III	2
Electrical Theory	I	1										
Measuring Method				2								
Electrical Engineering								2				
Electronics	I	1			II	2	III	2			IV	2
Degital Technics	I	1			II	2			III	2		
Network Theory										2		
Signal Theory									A	2	B	2
Optics						1						
Acoustics												
(Broadcasting Engineering)												
Audio Engineering			I	1	II	2						
Video Engineering	I	2	I	1	II	3			III	2		
Transmission Engineering						1						
(Broadcasting Equipment)												
Audio Equipment	I	3					II	2				
Video Equipment	I	3	I	8			II	4				
Out-side Broadcasting EQPMT.												
Common Facilities for Master -Control					I	2	II	2				
(Operation & Practice)												
Studio Production & Master-Control Operation	I	3	I	4								
Studio Production & Master-Control Exercise												
Outline of Production Maintenance Practice					I	4	II	4	III	2	IV	2
(Other Engineering)												
Control Engineering					I	1	II	1	III	2		
Metal Engineering								1				
Mechanical Engineering										1		
Architectural Engineering										1		
(Research & Guidance)												
Seminar									I A	2	II A	4
Subject Study												4
Guidance Practice												2
TOTAL SKS	16		18		20		20		18		18	

Necessary practices should be all included in above curriculum.

- Transmission Technique (Basic) (TX) D I
- Transmission and Maintenance Technique (Junior) (TX) D II
- Transmission and Maintenance Engineering (Senior) (TX) D III

Curriculum	D I				D II				D III			
	S	1	S	2	S	3	S	4	S	5	S	6
(Foundation)												
Mathematics	I	2	I	2	II	2	II	2	III	2	III	2
Electrical Theory	I	1							II	2		
Measuring Method				2								
Electrical Engineering				2								
Electronics	I	1			II	2						
Degital Technics	I	1			II	2						
Network Theory										2		
Signal Theory											B	2
Radio Frequency Circuit						2						
Dynamics						1						
Applied Dynamics								1				
(Broadcasting Engineering)												
Audio & video Engineering		2										
Radio Engineering	I	3	I	3	II	3	II	3	III	2		
Radio Engineering Exercise	I	2	I	2	II	2	II	2	III	2	III	2
(Broadcasting Equipment)												
Trsansmitting Equipment	I	2	I	2	II	3	II	4				
Receiving Equipment								1				
Power Equipment			I	2			II	2				
(Operation & Practice)												
Transmission System			I	1			II	1				
Maintenance Practice	I	2	I	2	II	2	II	2	III	2	III	2
(Other Engineering)												
Control Engineering					I	1	II	1	III	2		
Metal Engineering								1				
Mechanical Engineering										1		
Architectural Engineering										1		
(Research & Guidance)												
Seminar									I B	2	II B	4
Subject Study												4
Guidance Practice												2
TOTAL SKS	16		18		20		20		18		18	

Necessary practices should be all included in above curriculum.

4—5 教科書・教材整備状況

MMTCが開所された当初，多数の教官が豊富な教材を使って講義を行ったが，教材が整備されずに散逸し，教科書も編集されぬままであった。しかし，ＤＩコースが開始された1986年度を境に，専門家を中心に，教科書，教材の整備，作成が積極的に行われるようになった。また，この作業には，多くのカウンターパートも参加し，専門家の英語教科書をインドネシア語の教科書に作成するとともに，自らも現地語教科書の作成に当たってきた。

これら専門家及びカウンターパートの取り組みにより，ＤＩコース教科書の整備は現時点でほぼ完了したといえる。今後は，ＤＩコースの視聴覚教材等の充実，及びＤIIコース，ＤIIIコースに関する教科書，教材作成のための助言等が専門家チームの役割となる。

教科書，教材作成状況を次に示す。

(1) 教科書・教材作成状況

分　野	教科書・教材名（頁数）	C/Pの作成関与の有無
番組制作	A View on a New Subject	有
	放送調査	
	教　材（横山短期専門家講義　9Ｐ）	有
	〃　（〃　教材　23Ｐ）	〃
	〃　（〃　資料　17Ｐ）	〃
	〃　（〃　〃　82Ｐ）	〃
	〃　（〃　〃　51Ｐ）	〃
報　道	教科書　ＴＶジャーナリズム	有
	トランスペアレンシー	
	教　科（パブリックスピーチ）	〃
	〃　（コミュニケーション）	〃
	教科書　ＥＮＧ時代のＴＶニュース	〃
	ENG-Basic knowledge and Equipment	〃
	教材　ＤＩ指導要領	〃
制作技術	Video Mixer & Special Effect (53)	有
	Synchronizing Pulse (33)	〃
	Color TV Camera and Video Mixer (43)	〃
	Basic Television	〃
運行技術	Editing (16)	有
	Teknik Perekaman Video (12)	〃
送信技術	数　学 (130)	Ｃ／Ｐ作成
	真空管 (125)	〃
	半導体 (66)	〃
	電波伝搬 (140)	〃
	電気理論 (100)	〃
	マイクロウェーブ (50)	〃
	ＴＶ送信機の測定 (106)	専門家作成
	ENGINEERING LECTUR NOTE (111)	〃
番組編成	ＮＨＫの番組編成	有
	効率的な放送施設計画と管理	〃
	放送管理・編成	〃
	テレビ時代のラジオ	〃
	日本の「放送法」	〃

(2) LIST OF TEXTBOOKS

No	Title	Written by	Language	Pages	Remark
1.	-Introduction to Methodology Research	Willy A. Karamoy and Rachmad S.	Indonesia	46	
2.	-Political Communication: An Institutional Approach	Willy A. Karamoy	Indonesian	23	
3.	-Establishment and Management of Broadcasting Station (Suggestions for Working Out More Economical and Efficient Facility and Its Management)	Prof. Katsumi Shiraishi	English	12	
4.	-Radio in the TV Age	Prof. Katsumi Shiraishi	English	9	
5.	-Compiling of NHK's Broadcasting Programs	Prof. Katsumi Shiraishi	English	39	
6.	-Introduction to Television Production Program	Drs. Darwanto	Indonesian	127	
7.	-Operetta : A Palace for A King	Paul Widayawan	Indonesian	7	Script Writing
8.	-Evaluation on Education	Drs. Iksan Waseso	Indonesian	71	
9.	-Paedagogic : Spiritual Science	Prof. Drs. Dakir	Indonesian	12	
10.	-Qualitative Education Research Method	Drs. Dimiyati	Indonesian	25	
11.	-Television News Production in ENG Era	Kaoru Fukuoka	Indonesian	50	
12.	-ENG: The Ideal Equipment for TV News Coverage	Kaoru Fukuoka	Indonesian	100	

No	Title	Written by	Language	Pages	Remark
13.	-Scenario Analysis: On the Instructors' Needs at MMTC (A Managerial Cases)	Willy A. Karamoy	Indonesian	33	
14.	-The Arts of Public Speech	Willy A. Karamoy	Indonesian	7	
15.	-The Pattern of Production and Broadcasting of Television Programmes	Willy A. Karamoy	English	8	
16.	-Science Communication: A Paradigm in ON-OFF Television Screen	Willy A. Karamoy	English	5	
17.	-Amateur Radio Indonesia : The Third Profile	Willy A. Karamoy	English	4	
18.	-Effective Programming in Educational Broadcast	Willy A. Karamoy	English	10	
19.	-The Technique of Utilization on Multi Media for Religious Communication in the framework of National Development	Willy A. Karamoy	Indonesian	11	
20.	-Formatology of TV Programs	Willy A. Karamoy	Indonesian	102	
21.	-Radio Television Corporation	Ir. Hendro Sidharto	Indonesian/ English	24	
22.	-The Enhancement and Development of Media Radio	Ir. Hendro Sidharto	Indonesian	46	

No	Title	Written by	Language	Pages	Remark
23.	-An Introduction to the Program Slide Presentation	Bambang Winarso, BA	Indonesian	35	
24.	-Video Program Script Writing	Bambang Winarso, BA	Indonesian	51	
25.	-The Era of Television After the World War-II and an Comprehensive Observation of TV Media as Mass Communication, Television Description Systems.	Halim Nasir	Indonesian Indonesian	51 26	
26.	-The Development of Satellite Technology	Halim Nasir	Indonesian	19	
27.	-The Artistics Design	Harmen Harry	Indonesian	25	
28.	-Camera Operation and Its Application	Mooryantoro	Indonesian	15	
29.	-Power Supply System	Mooryantoro	Indonesian	35	
30.	-The Character of Lens	Sunaryo, BA	Indonesian	150	
31.	-The Technique of Camera Equipments	Sunaryo, BA	Indonesian	150	
32.	-The Technique of VTR Equipments	Sunaryo, BA	Indonesian	150	
33.	-The Technique of Vision Mixer Equipments	Sunaryo, BA	Indonesian	220	
34.	-The Video Technique I,II&III	Sunaryo, BA	Indonesian	220	
35.	-The TV Color Technique	Sunaryo, BA	Indonesian	220	
36.	-Glossary of Broadcast	Sunaryo, BA Akira Hasegawa Tsutomu Kato	Indonesian	331	

No	Title	Written by	Language	Pages	Remark
37.	-Introduction to Research Method	Rachmad S., SH	Indonesian	126	
38.	-Radio and Television as a mean of Education Media	Drs. Darwanto	Indonesian		In the process
39.	-Broadcast Management	Drs. Darwanto	Indonesian		-ditto-
40.	-Lighting	Drs. Istyo,H.	Indonesian	70	
41.	-Video Technic 1, 2, 3	Soeharno	Indonesian	120	
42.	-Colorimetry	Soeharno	Indonesian	60	
43.	-Radio-TV Journalist	Drs.BMO Prayoga	Indonesian	50	
44.	-Interview and News Reporting	Drs.BMO Prayoga	Indonesian	30	
45.	-Video Editing	Djudjur, S.	Indonesian	39	
46.	-Video Tape Recorder	Djudjur, S.	Indonesian	42	
47.	-Introduction to Management of R-TV Production	Drs. A.Z. Tamadjoe	Indonesian	105	
48.	-The Library works	Masayasu Inada	English	88	
49.	-Guide Book For Record Filing (For Small Scale Library) -Attachment-	Masayasu Inada	English	33	
50.	-Indonesian Communication Strategy in the Global Communication context, to meet the developing of Communication Technology	Drs. F. Rachmadi	Indonesian	16	